岩手県の中学校における「性に関する指導」の実施状況に関する調査報告書

令和５年11月

岩手県医師会思春期保健対策委員会
いわて思春期研究会

ま え が き

この調査報告書は、岩手県医師会思春期保健対策委員会がいわて思春期研究会に調査依頼した結果です。

最近は ICT の世界的な普及により、多くの分野で効率化が進んで来ています。殆どの方が所有しているスマートフォンは非常に便利な反面、性被害の危険性、詐欺、闇バイト等の悪用、誹謗中傷やいじめの拡散、ゲーム依存症に伴う脳や眼の障害、対面での会話、共同作業の苦手な子の増加等の問題も多く見受けられる様になりました。これらは将来を担う子どもたちの思春期に悪影響を及ぼす事が危惧されています。

そこで当委員会では大きく変化して来ている社会情勢、生活様式の中での子どもたちに最新の正しい性・生の知識を伝えるために、思春期に関わる学校現場の状況、問題点、要望などを把握して共通認識を持つ必要があると判断し、アンケート調査を実施する事になりました。今後は得られた貴重な結果を踏まえて現状に適したスライド、動画などの提供、共有をしていく方針です。

結びに、本調査に御協力いただきました県内各中学校の関係者の方々に深く感謝申し上げます。

令和 5 年 11 月

岩手県医師会思春期保健対策委員会　委員長　吉田耕太郎

岩手県の中学校における「性に関する指導」の実施状況に関する調査報告書　目次

報告書

岩手県の中学校における性に関する指導の実施状況に関する調査報告書

1　はじめに

本県の思春期保健対策については、平成 13 年前後に 10 代の人工妊娠中絶実施率がピークを迎えた時期から、関係者・機関が連携しながら、専門家等による出前授業や岩手県医師会思春期保健対策委員会が作成したる性教育 CD の配布等、様々な事業を展開してきた。また、平成 17 年２月には、これらの施策による教育の効果について評価するため、岩手県医師会思春期保健対策委員会が、県内の全中学校を対象にアンケートを実施し、一定の効果が明らかになった[1]ところである。

現在は、10 代の人工妊娠中絶実施率も全国平均を下回っており[2]、また、高校生の性行為経験率も低下している[3]など、思春期に関する課題は落ち着いているように見えるが、一部地域では性に関する指導の機会が少なくなっているとの現場からの情報もあり、今後の思春期保健対策について、見直しを行う時期になっている。

一方、中学校では令和 3 年度から新たに改訂された学習指導要領[4]が、全面実施されている。また、文部科学省では令和２年度から「生命の安全教育」[5]の取り組みを始め、性犯罪・性暴力の被害者にも加害者にもならないよう対策を推進している。しかし、中学校保健体育 1 学年で学ぶ「生殖に関わる機能の成熟」では、いわゆる「はどめ規定（妊娠の経過は取り扱わないものとする。）」が依然として存在しており、「性交」について教えることができないまま「妊娠」や「性犯罪・性暴力」について中学生に理解を求めるという歪みが生じている。さらに、ユネスコが示している「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」[6]では、９～12 歳の年齢層で「性交」の概念、12～15 歳の年齢層で「望まない妊娠」等について知る必要があるとされているが、日本の性に関する指導の現状は、本ガイダンスのレベルには程遠い状況である。

このような状況の中で、本県の中学校における性教育の現状、生徒たちを取り巻く新たな課題や今後取り組むべき事項などを調査・分析し、得られた結果について議論することは極めて重要である。

2　調査の目的

中学校で行われている性に関する指導の実施状況について調査することにより、現状の課題を明らかにするとともに今後の性に関する指導の方向性を得ることを目的とした。

3　調査の実施体制等

調査主体は、岩手県医師会思春期保健対策委員会とした。調査計画の立案、調査の実施にあたっては、いわて思春期研究会が本調査のワーキンググループを組織し、具体的な調査活動を行った。ワーキンググループのメンバーは、本研究会会員及び会員以外の専門家で構成した。（別表名簿のとおり。）

4　調査方法

(1) 用語の定義

この調査で扱う「性に関する指導」とは、中学校において「人間尊重、男女平等」、「生命尊重」、「性の問題に対する適切な意思決定や行動選択」、「心身の成長」、「異性との関わり」、「自他を大切にする生き方」およびこれらの項目に関連することがらについて、生徒に対して行う指導のことを言う。

(2) 調査デザイン

自記式記名（学校名）アンケート方式とした。回答方法は以下の３種類の方法から、調査対象中学校が任意にひとつの方法を選び回答する方式とした。

ア　予め回答票として作成したグーグルフォームにアクセスし、回答をフォームに入力・登録する。

イ　メールで送付した調査票（エクセルファイル）に回答を入力し、本調査専用のメールアドレスあてに回答済みエクセルファイルを添付したメールを送付する。

ウ　本調査票に回答を手書きしたものを PDF 化し、本調査専用のメールアドレスあてに PDF ファイルを添付したメールを送付する。

(3) 調査対象

調査対象期間は令和３年度とし、調査対象校は県内のすべての中学校とした。

(4) 調査期間

令和５年２～３月に実施した。

(5) 調査項目

ア　学校の属性

・学校名、生徒数、回答者の職種

イ　教科学習で行った性に関する指導の実施状況

・実施した性に関する指導の学年毎、教科毎の時間数、

・教科間で連携を行った事例

ウ　特別活動・総合的な学習で行った性に関する指導の実施状況

・特別活動・総合的な学習で行った性に関する指導の内容

・特別活動・総合的な学習で行った性に関する指導の学年毎の時間数

エ　性交、避妊法や人工妊娠中絶など、学習指導要領に示されていない内容について

・指導している場合は、指導内容、指導の位置づけ、指導している理由

オ　教材について

・現在使用している教材、こんな教材がほしい

カ　性に関する指導を行ううえでの課題

・性に関する指導を行ううえで、障害となっていること

・性に関する指導で重点をおいていること

・生徒たちを取り巻く新たな課題

キ　性に関する指導に係る自由意見等

(6) 調査方法

調査依頼文書及び調査票を学校にメールで送付する。調査票については、予め同じ調査内容の Google フォーム質問票を作成し、Web 上で利用できるよう準備する。調査票が送付された中学校は、上記 4(1) の方法で回答する方式とした。なお、メールによる回答の場合は、ファイルにパスワードを付した。

本調査に係る問い合わせは、予め、本調査専用のメールアドレスアカウントを取得し、メールにて対応した。

調査期間終了後、各学校が入力したデータをダウンロードし、集計・解析した後、調査報告書を作成する。調査結果は、調査主体である岩手県医師会思春期保健対策委員会が調査報告書を用いて公表する。

調査報告書には集計した結果のみを記載し、個別のデータについては一切公表しない。

(7) 結果の解析

各調査項目について単純集計を行ったほか、生徒数規模、地域（県央、県南、沿岸、県北の４広域）と各調査項目間でクロス集計を行った。自由記載項目は、定量テキスト分析により頻出語や頻出語に関連する語句を抽出し、共起ネットワークによる分析を行った。

統計処理は、SPSS ver.18、R ver.4.1.0、KH Coder3 等を使用した。

5　倫理的配慮

本調査は、岩手県立大学研究倫理審査会の承認を得た（令和５年 1 月 25 日 県大第 1905 号 承認番号 416)。

調査対象である学校には、調査依頼文書に調査の概要及び調査の参加は自由意思であることを記載することで説明に代えた。

Google フォームに入力したデータに関するセキュリティについては、同フォームが SSL/TLS による暗号化を採用していることから、安全であると判断した。

データのダウンロード及び収集は、ワーキンググループ統括者 1 名のみが行い、ダウンロード及び収集したデータは、通し番号を付与後、所在地について４広域にカテゴリ化したのち、学校名を削除した EXCEL ファイルとし、読み取りパスワードを設定した運用データとして保存した。元データは CD-ROM に記録し、別途厳重に保管した。

データ解析に使用したパソコン内蔵の記録媒体に保存した運用データは、報告書完成後、市販のデータ消去アプリケーションを使用してデータファイルを削除することとした。元データは調査結果の信頼性を担保するため、報告書完成後 1 年間保管した後破棄することとした。

6　調査結果

(1) 学校の属性等

ア　回収率等

調査対象中学校 151 校に対して回答は 97 校であり、回収率は 64.2%であり、有効回答率も 64.2%であった。回答方法の内訳は、Google Form が 86 校、Excel 調査票が 10 校、手書き PDF が 1 校であった。

イ　生徒数規模及び所在地域によるカテゴリ分け（図 1）

得られた回答は、生徒数規模（小規模校（120 人以下：学年 1 クラス程度）、中規模校（121-240 人：学年 2 クラス程度）及び大規模校（241 人以上：学年 3 クラス以上）の 3 カテゴリ）及び所在地域（盛岡広域、県南広域、沿岸広域及び県北広域の 4 カテゴリ）によるカテゴリ分けを行った。

地域による生徒数規模の偏り（または、生徒数規模による地域の偏り）に、有意な差は認められなかった（p=0.410; Fisher's exact test）。

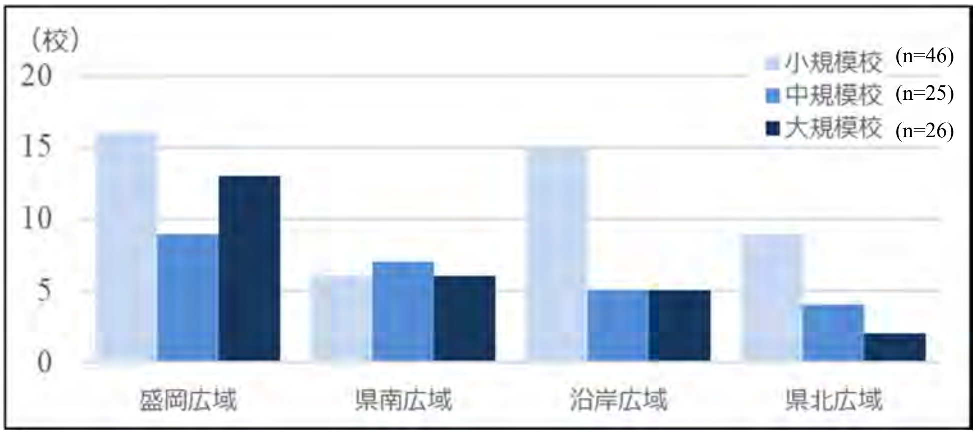

図 1 学校の属性（生徒数規模／広域別）

ウ 回答者の職種（図 2）

回答者の職種で最も多い職種は「養護教諭 73 校（75.3%）」次いで「教員 50 校(51.5%)」、「保健主事 24 校(24.7%)」であった。その他として「生徒指導主事兼保健体育主任」、「保健体育科主任」の回答があった。

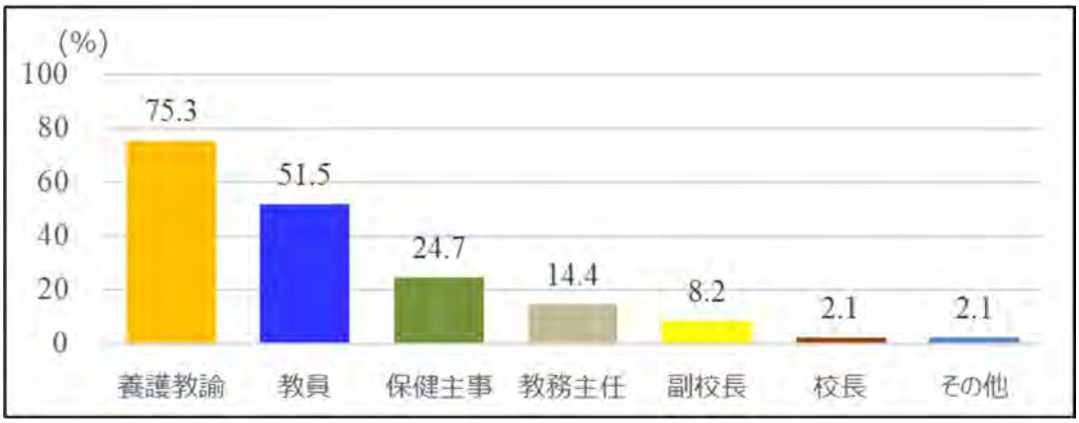

図 2 回答者の職種（複数回答）

(2) 教科学習で行った性に関する指導の実施状況

ア　教科学習で行った性に関する授業を扱った授業時間数（表 I および図３）

　各教科で行った性に関する指導を扱った授業時間数の中央値と 75%タイル値を示す。回答のあった学校全体の集計では、性に関する指導の時間数は、中学校３年間 5 教科合計（中央値）で 20 時間であった。

表 I　教科学習で行った性に関する授業を扱った授業時間数（科目別：中央値・75%タイル値）

	I 年		2年		3年		計	
	中央値	75% タイル値	中央値	75% タイル値	中央値	75% タイル値	中央値	75% タイル値
道徳科	2.0	4.0	2.0	5.0	2.0	4.8	6.0	12.0
保健体育科	4.0	4.0	0.0	2.0	2.0	3.0	6.0	8.0
家庭科	0.0	2.0	0.0	0.0	1.5	3.0	2.0	5.6
理科	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	3.5	3.0	4.5
社会科	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	3.0	3.0	5.0

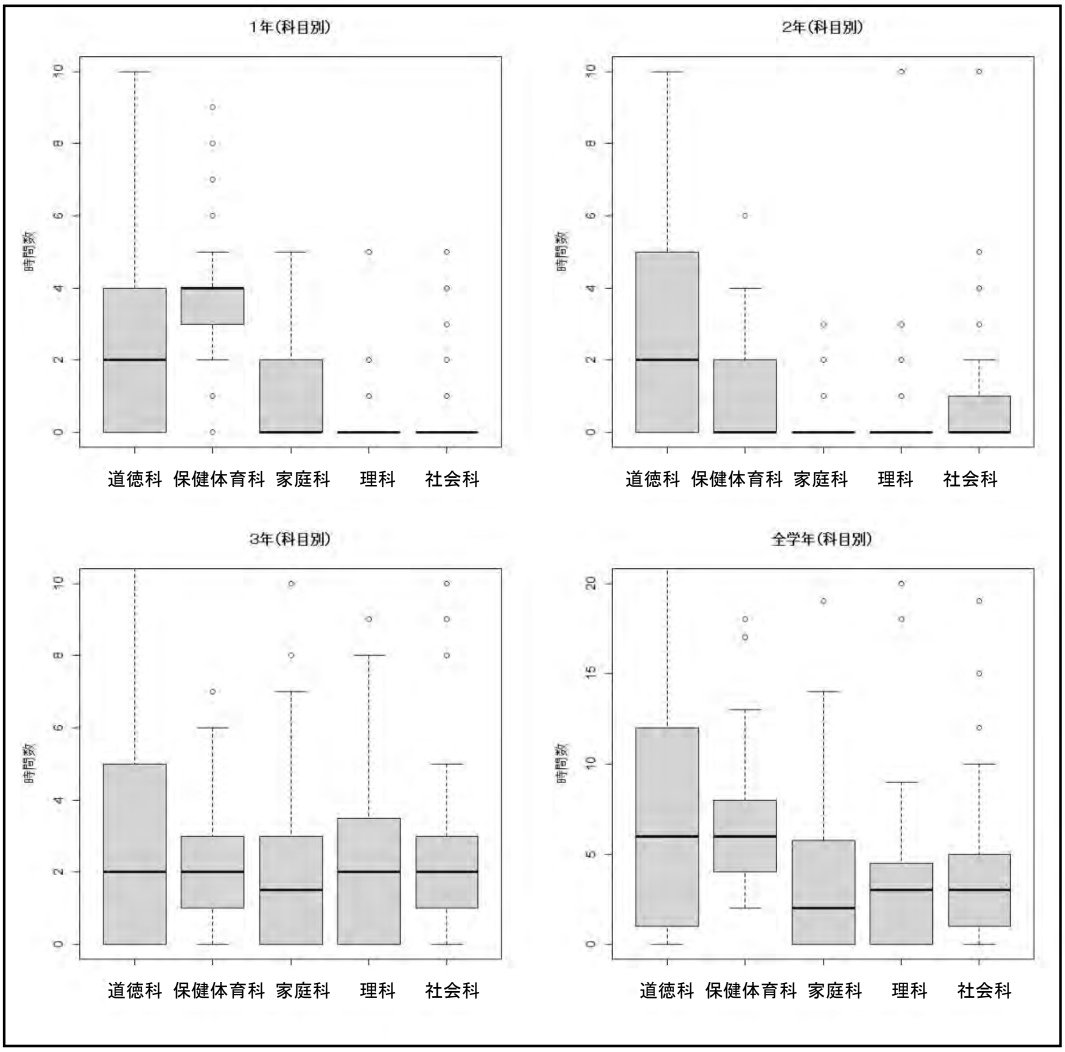

図３ 教科学習で行った性に関する授業を扱った授業時間数（科目別）

イ　教科間の連携（図４および図５）

教科間の連携を行っていた学校は８校（8.2%）であり、その例として「道徳と保健体育」、「社会科と道徳と国語との連携」、「各教科と道徳」などがあり、道徳科との連携が比較的多いことがわかった。

教科間の連携について、生徒数規模及び所在地域による有意な差は認められなかった。

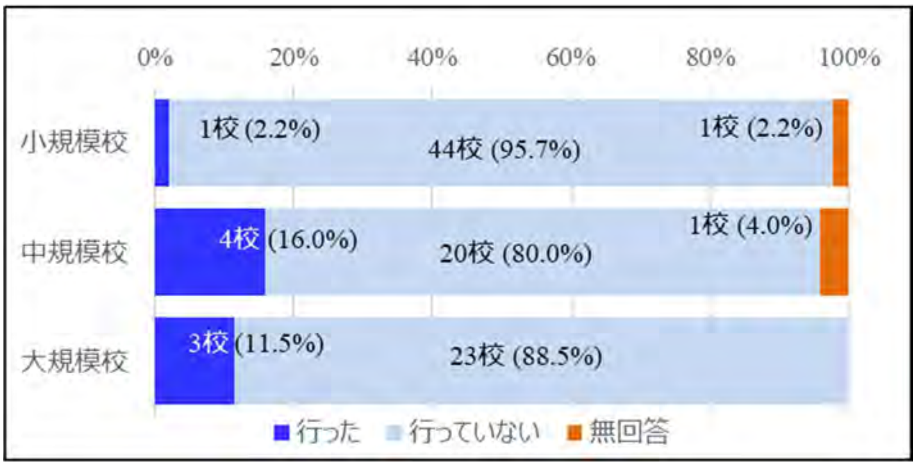

図４　教科間の連携（生徒数規模別）

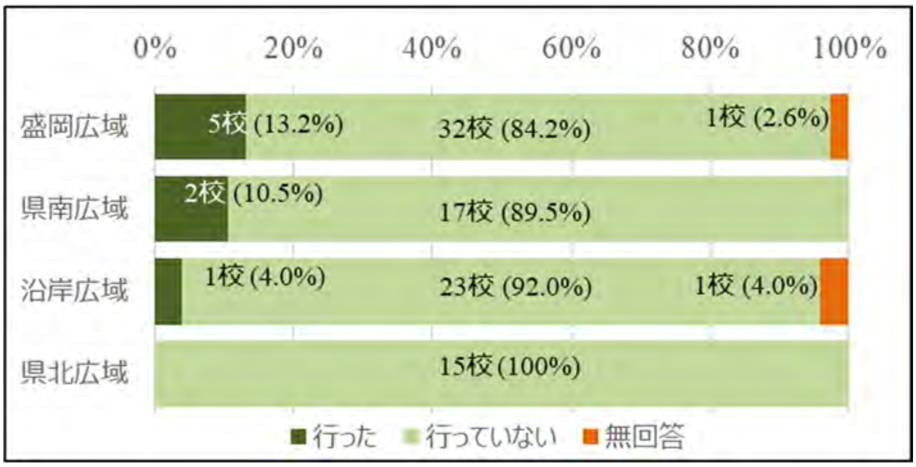

図５　教科間の連携（広域別）

(3)　特別活動・総合的な学習で行った性に関する指導の実施状況

ア　特別活動・総合的な学習で行った性に関する指導（図６および図７）

特別活動等で性に関する指導を行った学校は 62 校（63.9%）と半数以上の学校が特別活動や総合的な学習を利用して性に関する指導を行っていた。

生徒数規模で比較すると、小規模校はほかの生徒数規模と比べて特別活動等による指導を行った学校の割合が少ない傾向にあった（p=0.023;Fisher's exact test）。広域別では、特別活動等による指導を行った割合に有意な差は認められなかった。

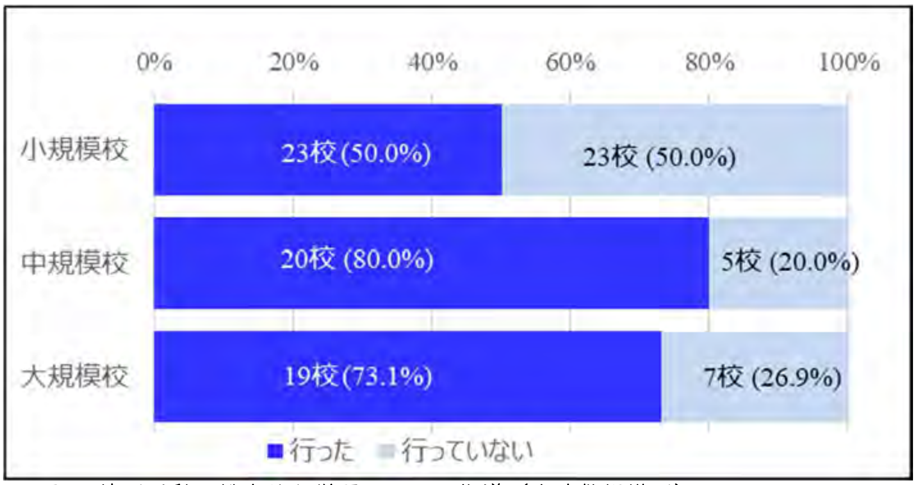

図６ 特別活動・総合的な学習における指導（生徒数規模別）

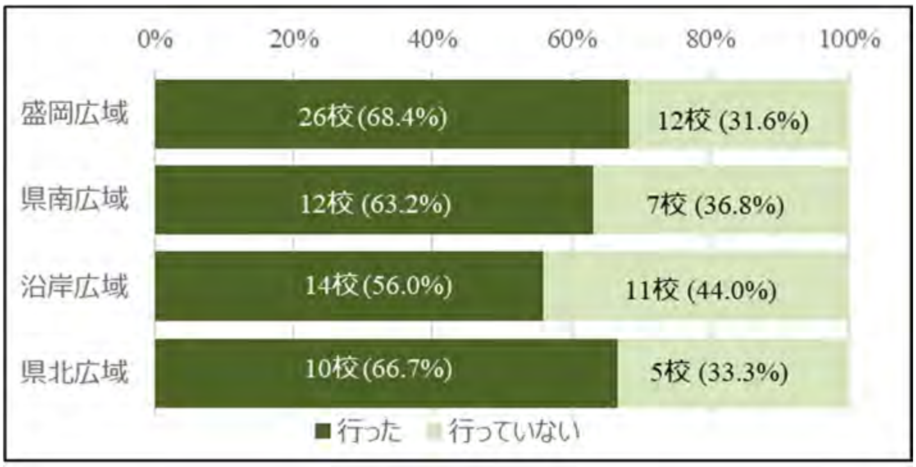

図７ 特別活動・総合的な学習における指導（広域別）

イ　特別活動・総合的な学習における指導の形態及び講師（図８および図９）

特別活動等で行った性に関する指導の形態は「外部講師」が全学年においてほぼ80％

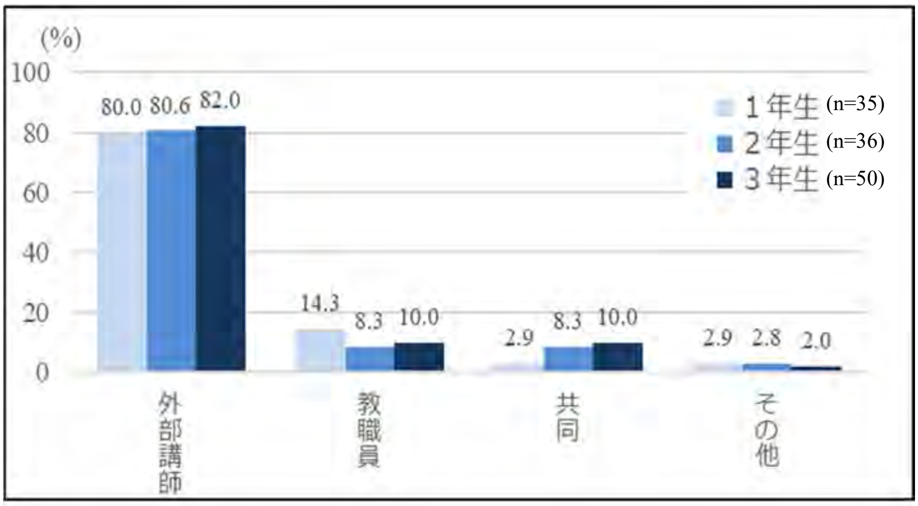

図８ 特別活動等の形態（複数回答）

ともっとも多かった。その他として「スクールカウンセラーによる指導」があった。

講師の職種は、全学年において「助産師」がもっとも多く、学年全体で52件とほぼ半数を占めていた。次いで「大学教員」19件（15.7%）、「医師」15件（12.4%）であった。「その他」は1年生において5件（14.3%）と比較的多く、例として「岩手県男女共同参画センター」、「警察」、「いわて思春期研究会」、「NPO法人」などがあげられた。

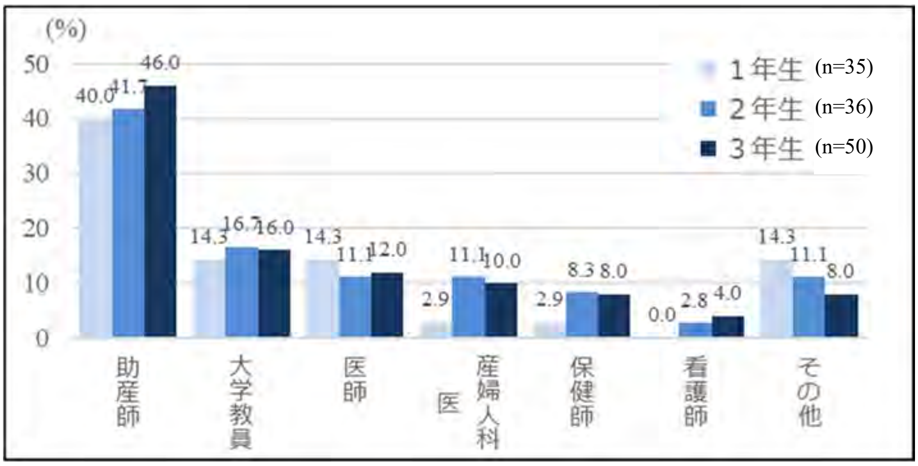

図9　特別活動等の講師（複数回答）

ウ　特別活動・総合的な学習における指導の時間数（図10）

特別活動等で行った性に関する指導の時間数は、学年では3年生が最も多く、また各学年では1時間（1年；23校、2年；23校、3年；28校）が最も多かった。学年合計では2時間（20校）が最も多く次いで3時間（17校）、1時間（13校）であった。最大では、2校が8時間行っていた。

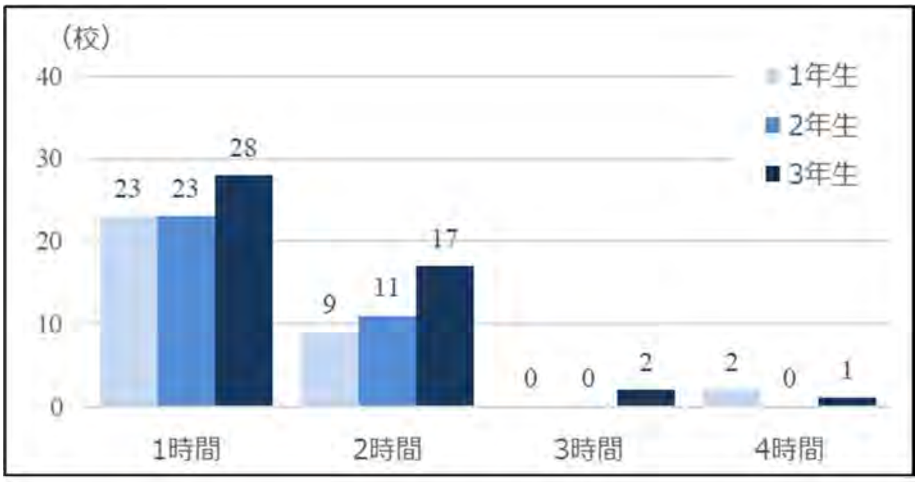

図10 特別活動等を行った時間数（学年別）

エ　特別活動・総合的な学習における指導の内容

特別活動等で行った内容について、自由回答を計量テキスト分析ツールにより頻出語を抽出した。最も頻出した単語は「性」、次いで「思春期」、「大切」、「生命」、「誕生」、「異性」、「自他」、「生き方」、「性感染症」などであった。

(４) 性交、避妊法や人工妊娠中絶など、学習指導要領に示されていない指導の実施状況

ア　学習指導要領に示されていない内容の指導（図 11 および図 12）

学習指導要領に示されていない内容の指導を行った学校は、40 校（41.2%）であった。地域別では、沿岸広域がほかの地域と比較してやや高い傾向が認められた（p=0.106;Fisher's exact test）。

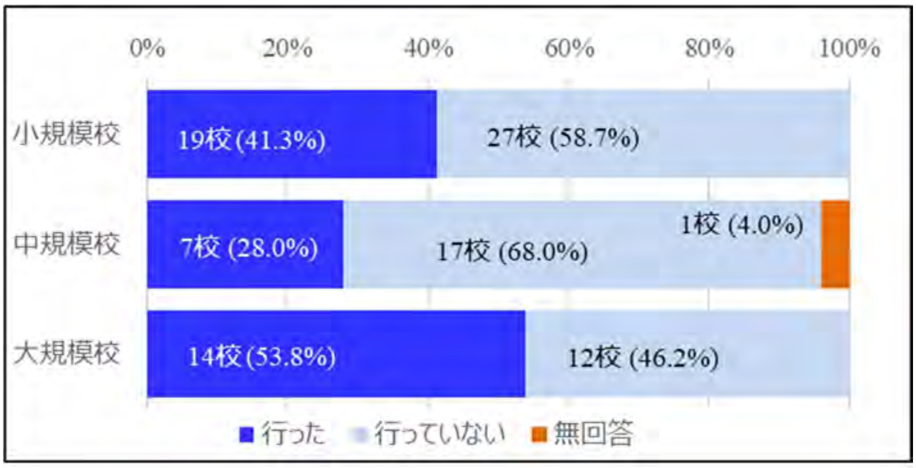

図 11　学習指導要領以外の指導（生徒数規模別）

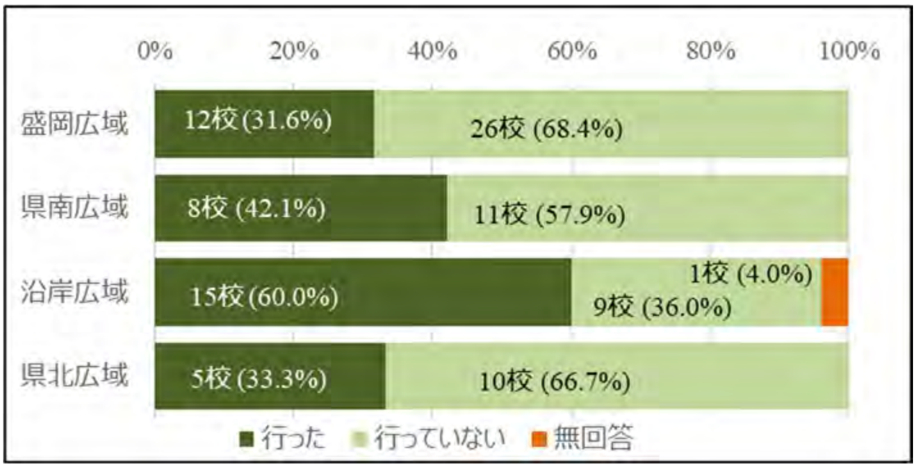

図 12　学習指導要領以外の指導（広域別）

イ　学習指導要領以外の指導と特別活動等との関連（図 13）

学習指導要領以外に行った指導の有無と特別活動等による指導の有無との関連では、学習指導要領以外の内容の指導を行った学校のうち、特別活動等による指導を行った学校の割合（50.8%）は、行っていない学校(25.7%)より有意に高かった。（p=0.019;Fisher's exact test、 オッズ比：2.95 (95%信頼区間 1.11-8.40)）

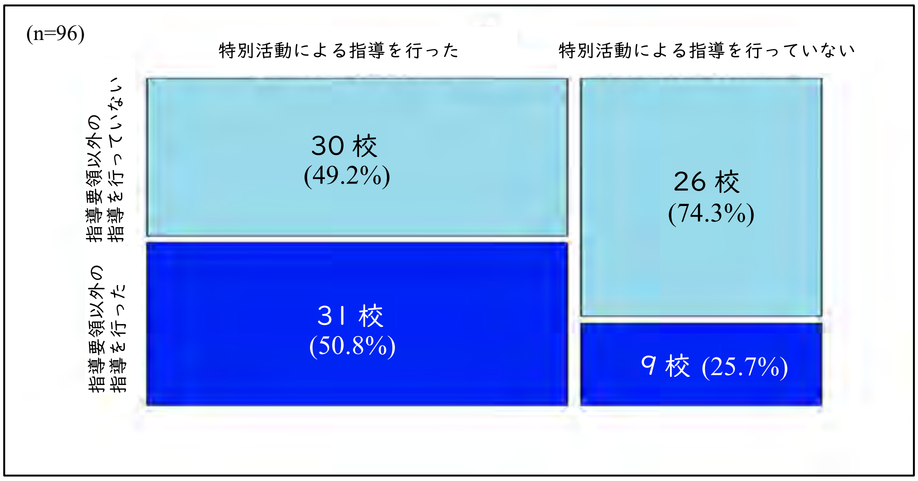

図 13 学習指導要領以外の指導と特別活動等との関連

ウ　学習指導要領以外の指導の内容（図 14 および図 15）

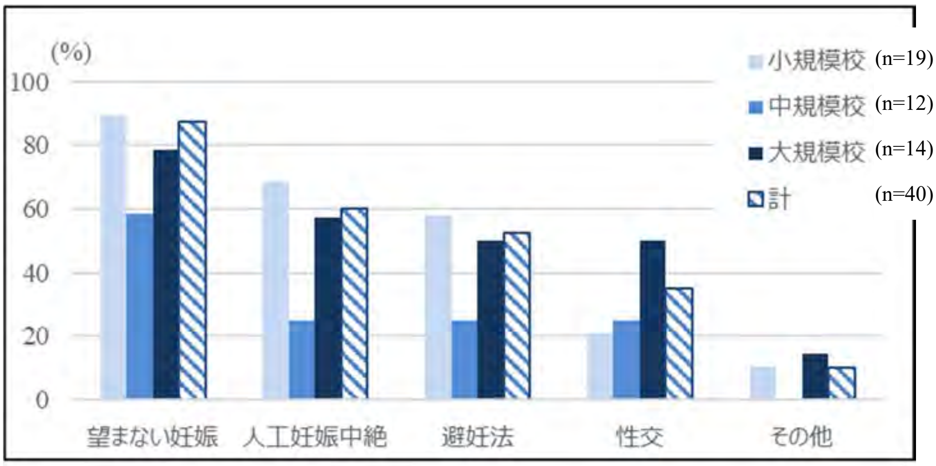

図 14 学習指導要領以外の指導の内容（複数回答/生徒数規模別）

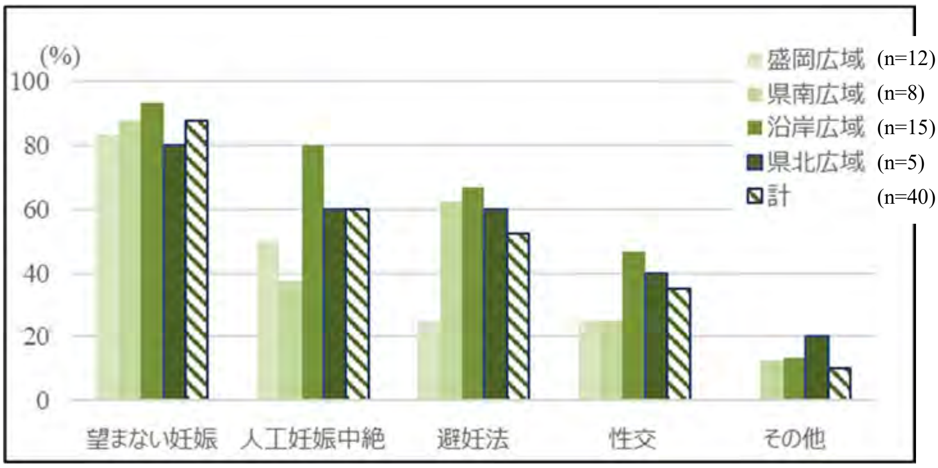

図 15 学習指導要領以外の指導の内容（複数回答/広域別）

学習指導要領以外に行った指導の内容について、もっとも多いものは「望まない妊娠」35 校（87.5%）、次いで「人工妊娠中絶」24 校（60.0%）であった。いわゆる「はどめ規定」の内容である「妊娠の経過」に関して大きな意味を持つ「性交」について指導した学校は 14 校（35.0%）であった。その他として、「異性とのかかわり」、「デートDV」、「LGBTQ+」などがあげられた。

指導の内容について、生徒数規模別、また、広域別で有意な差は認められなかった。

エ　学習指導要領以外の指導の位置づけ（図 16 および図 17）

学習指導要領以外に行った指導の位置づけは、「教科学習で行った」が最も多く 19 校（47.5%）であった。その他として、「学級活動」と「個別指導」があげられた。

また、広域別では、盛岡広域以外の地域は「教科学習」＞「特別学習」＞「総合的な学習」の順で指導の位置づけの割合が高かったが、盛岡広域では「教科学習」＜「特別学習」＜「総合的な学習」であった。

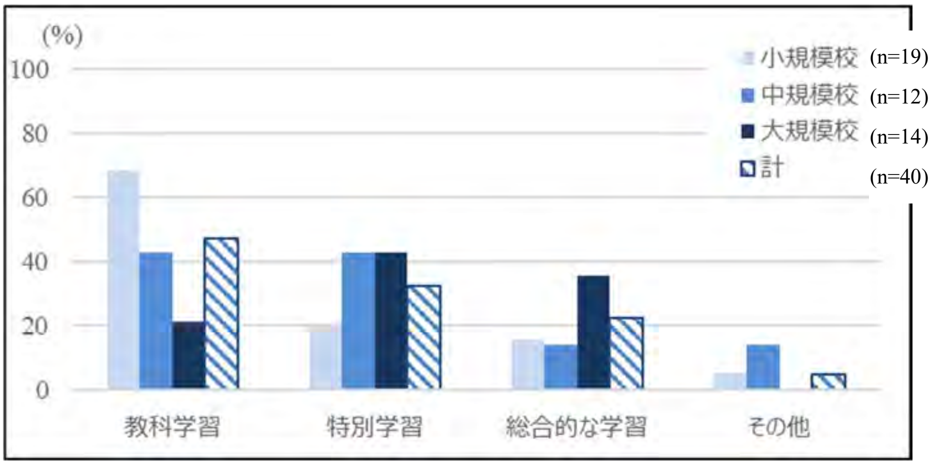

図 16 学習指導要領以外の指導の位置づけ（複数回答/生徒数規模別）

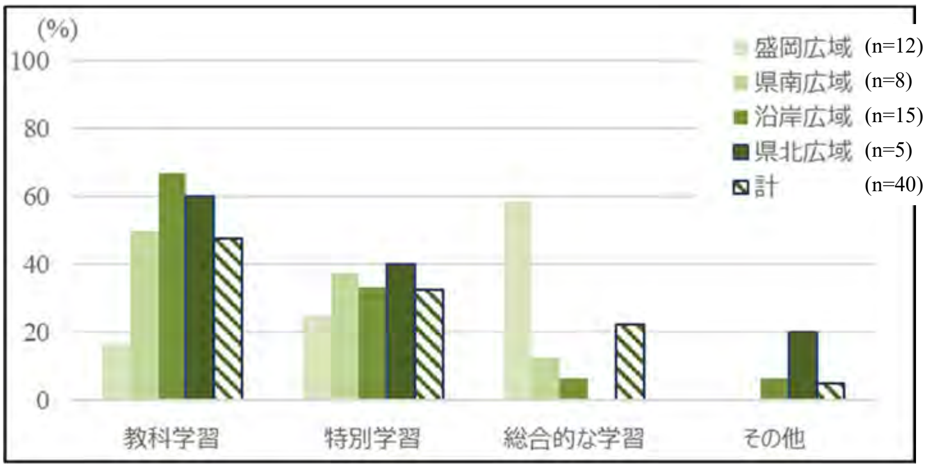

図 17 学習指導要領以外の指導の位置づけ（複数回答/広域別）

オ　学習指導要領以外の指導を行った理由（図 18）

学習指導要領以外の指導を行った理由の回答のテキストについて、定量テキスト分析を行った。その共起ネットワークをみると、「生徒」、「情報」、「正しい」、「知識」、「伝える」、「外部講師」、「必要」などのキーワードが頻出し、また、キーワード間の関連が強かった。

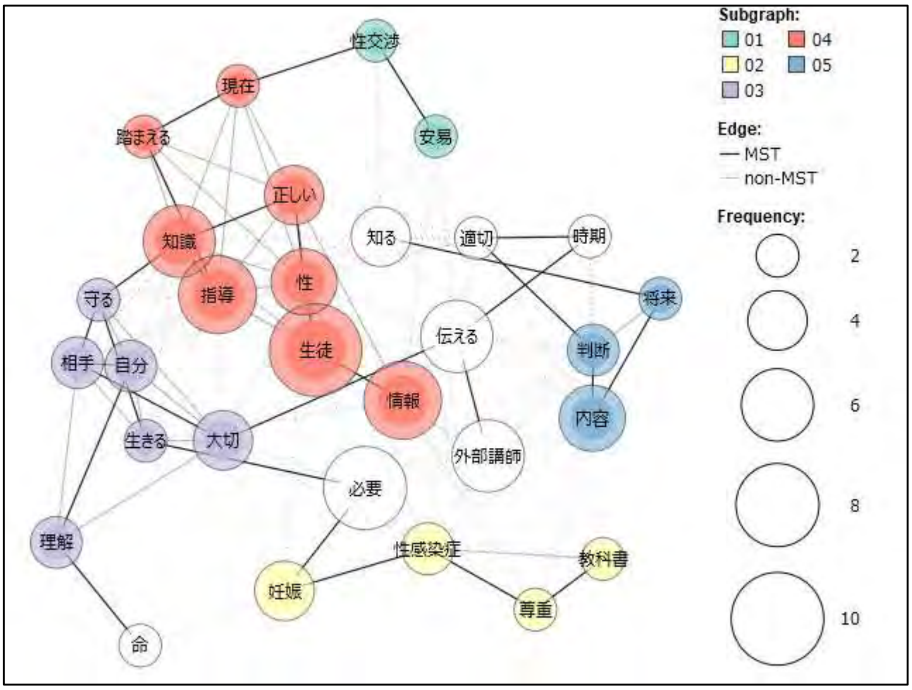

図 18 学習指導要領以外の指導を行った理由（共起ネットワーク）

(5) 性に関する指導で使用している教材

ア　教材の使用（図 19 および図 20）

性に関する指導で教材を使用している学校は 36 校（37.1%）であった。地域別では、沿岸広域が他の地域と比べて教材を使用している割合がやや高い傾向であった。

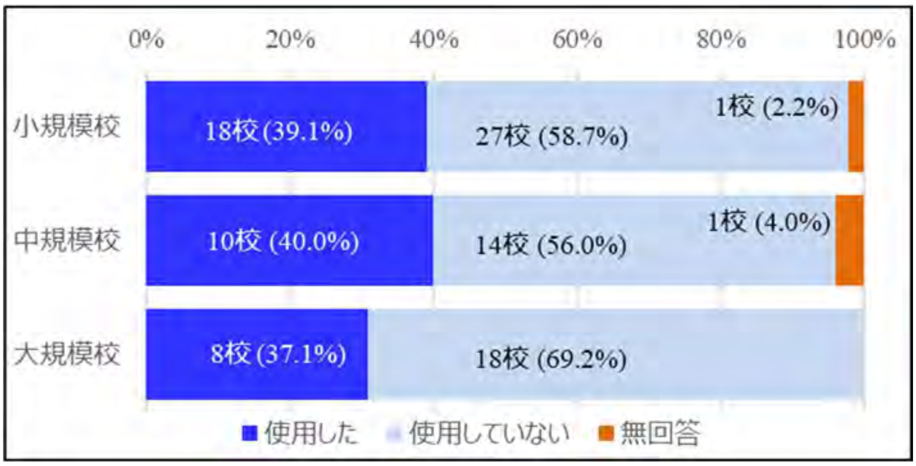

図 19 性に関する指導における教材の使用（生徒数規模別）

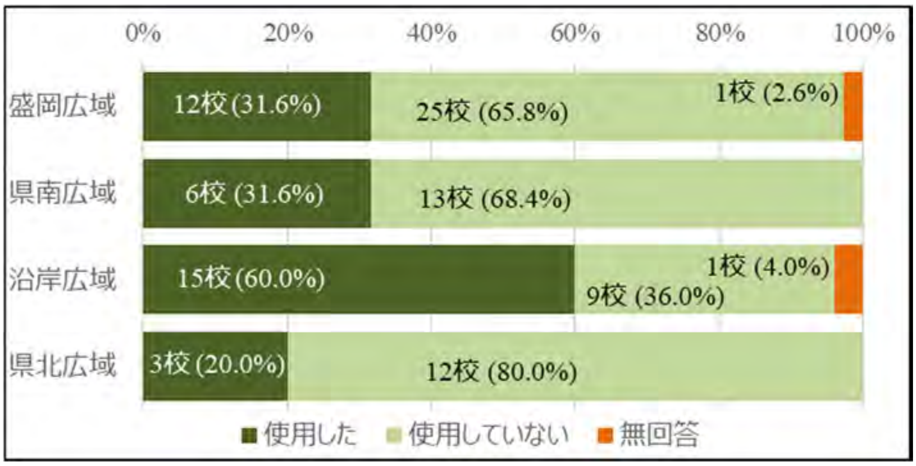

図 20 性に関する指導における教材の使用（広域別）

イ　使用した教材の由来（図 21）

性に関する指導で使用している教材の由来は、「独自に作成」と「他から入手」が同数で 17 校（47.2%）、「その他」が 10 校（27.8%）であった。その他は「Youtube チャンネル」、「講師独自の教材」などであった。

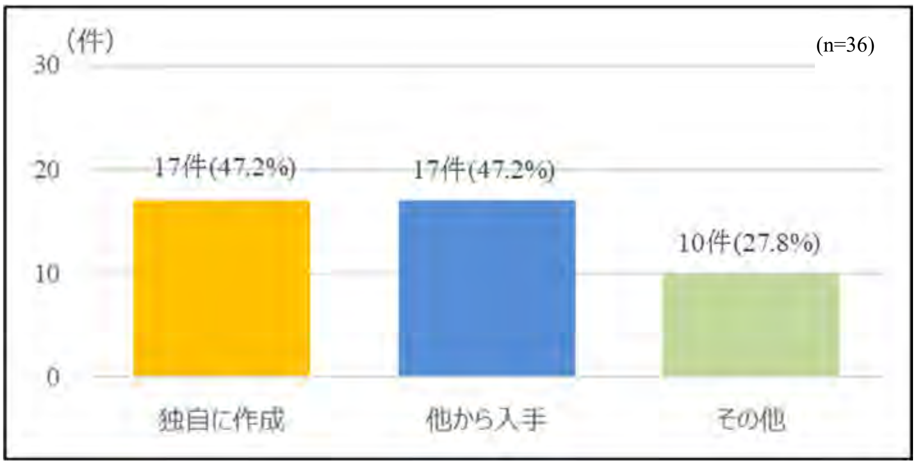

図 21 性に関する指導で使用した教材の由来（複数回答）

ウ　使用した教材の内容（図 22）

使用した教材の内容の自由回答のテキストについて、定量テキスト分析を行った。その共起ネットワークをみると、各学校とも実に多彩な教材を工夫しながら使用していることがわかった。

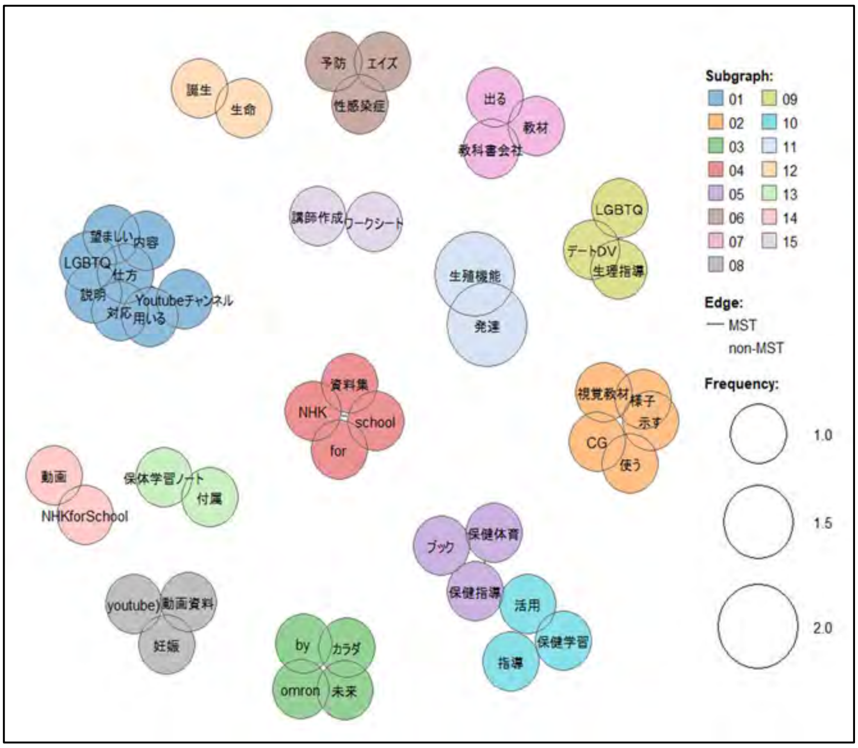

図 22 性に関する指導で使用した教材の内容（共起ネットワーク）

エ 希望する教材（図 23）

希望する教材に関する自由回答のテキストについて、その共起ネットワークをみると、多くのジャンルについて「動画」、「スライド」「DVD」などの視聴覚教材の希望が多いことがわかった。

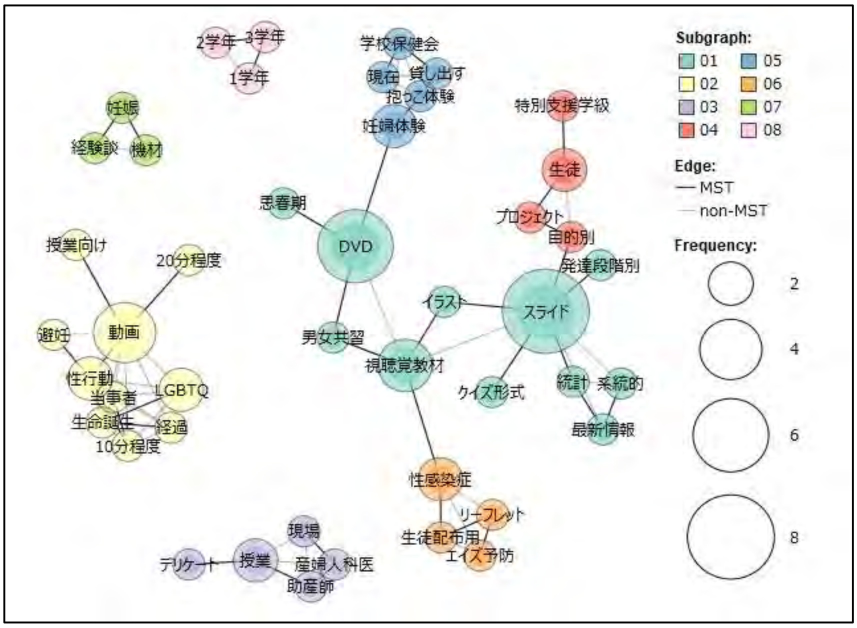

図 23 性に関する指導で希望する教材（共起ネットワーク）

(6) 性に関する指導を行ううえでの課題

ア　性に関する指導を行ううえで障害となっていること（図 24 および図 25）

性に関する指導をするうえで障害になっていることは、「指導内容や方法に不安」が 52 校（57.8%）ともっとも多く、次いで「教材・手引きが少ない」40 校（44.4%）、「時間の確保が難しい」34 校（37.8%）であった。その他は「生徒の心身の発達と指導のタイミング」、「心身の発達段階に応じる必要があるため」があげられた。生徒数規模別または広域別では、特に有意な差は認められなかった。

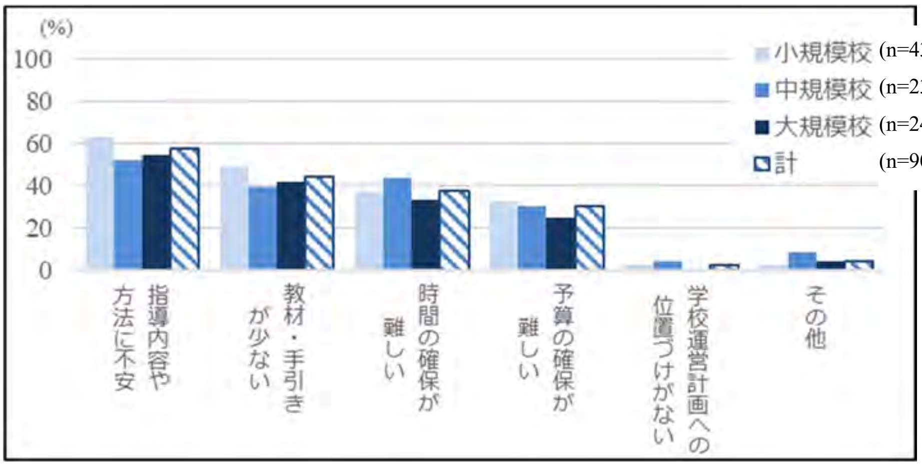

図 24 性に関する指導を行ううえで障害となっていること（複数回答/生徒数規模別）

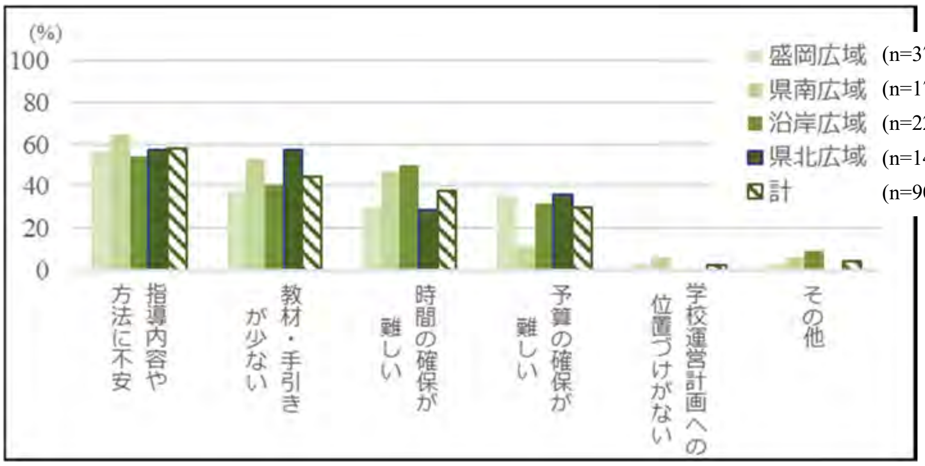

図 25 性に関する指導を行ううえで障害となっていること（複数回答/広域別）

また、「指導するうえで障害となっていること」と「特別活動等による指導の有無」との関連（図 26）では、「時間の確保が難しい」を選んだ学校ほど「特別活動等による指導を行っていない」割合が有意に高かった。（調整済みオッズ比 3.12（95%信頼区間:1.25-8.33)）。

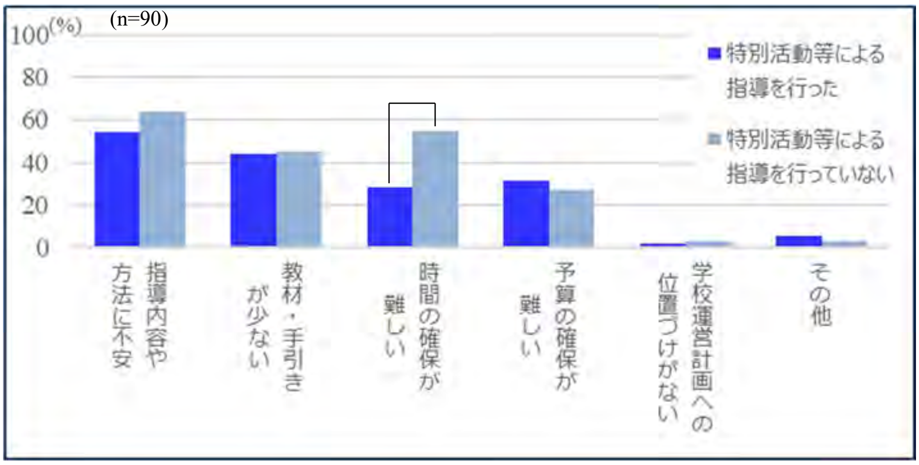

図 26 性に関する指導を行ううえで障害となっていることと特別活動等による指導の有無との関連

イ　性に関する指導を行ううえで重点をおいていること（図 27 および図 28）

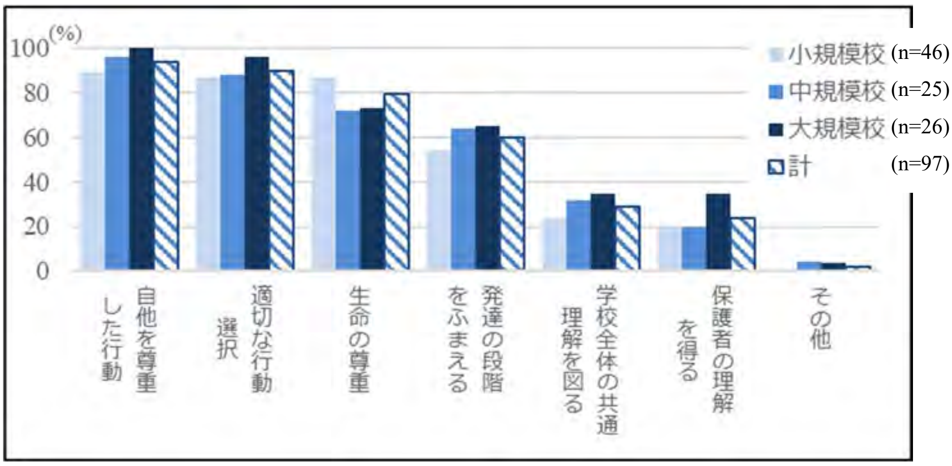

図 27 性に関する指導を行ううえで重点をおいていること（複数回答/生徒数規模別）

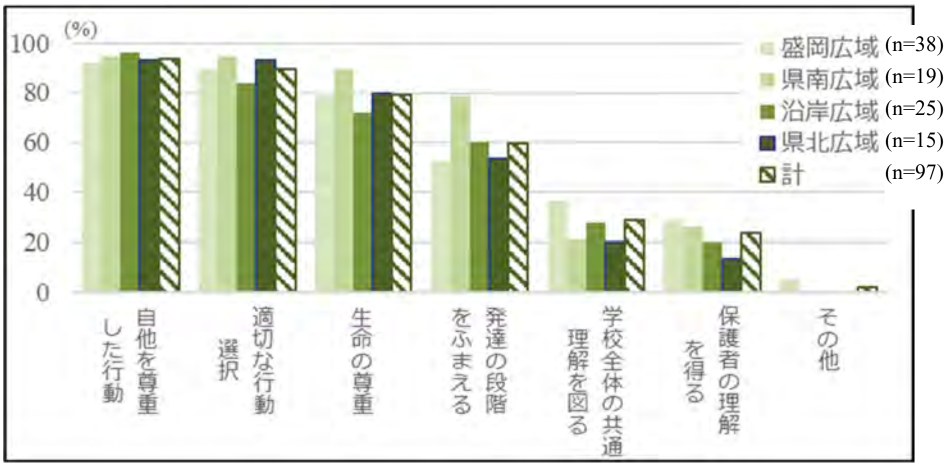

図 28 性に関する指導を行ううえで重点をおいていること（複数回答/広域別）

性に関する指導で重点をおいていることは、「自他を尊重した行動」が91校(93.8%)ともっとも多く、次いで「適切な行動選択」87校(89.7%)、「生命の尊重」77校(79.4%)であった。生徒数規模、また、地域による有意な差は認められなかった。その他には「生徒のニーズ」、「全学年における性の多様性についての理解」があげられた。

また、「指導で重点をおいていること」と「特別活動等による指導の有無」または「学習指導要領以外の指導」との関連（図29および図30）では、「自他を尊重した行動」と「特別活動等による指導の有無」との関連（調整済みオッズ比 8.38(95%信頼区間:0.91-77.6))、及び「適切な行動選択」と「学習指導要領以外の指導」との関連（調整済みオッズ比 7.83(95%信頼区間:0.93-66.2)）に比較的強い関連が認められた。

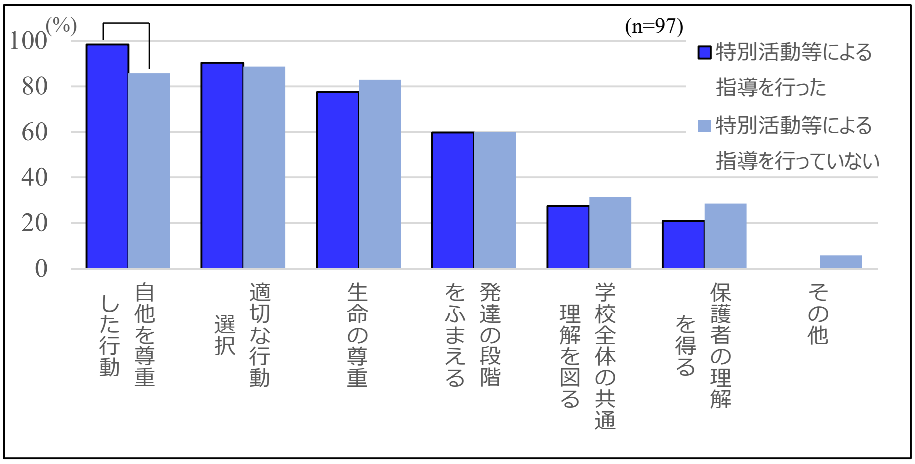

図29 性に関する指導を行ううえで重点をおいていることと特別活動等による指導の有無との関連

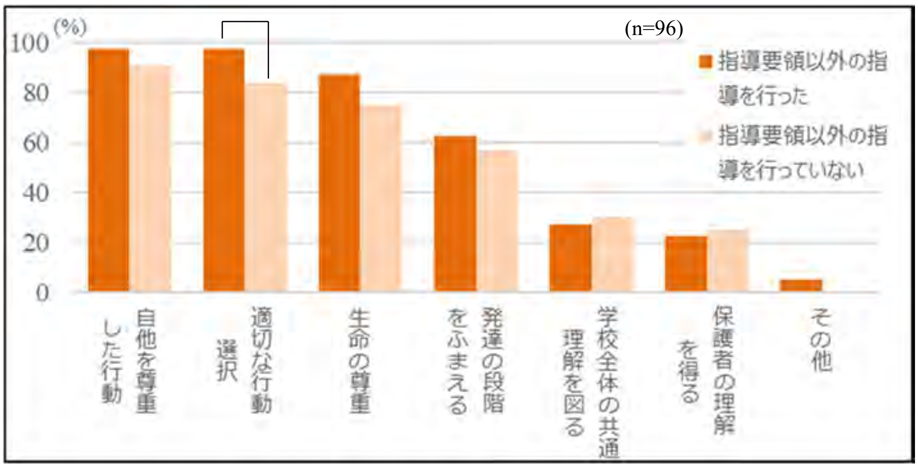

図30 性に関する指導を行ううえで重点をおいていることと指導要領以外の指導の有無との関連

ウ　生徒をとりまく新たな課題（図 31 および図 32）

生徒をとりまく新たな課題は、「SNS 等ネットトラブル」が 87 校（89.7%）ともっとも多く、次いで「性に関する誤った知識」66 校（68.0%）、「性に関する知識不足」57 校（58.8%）であった。生徒数規模、また、地域による有意な差は認められなかった。

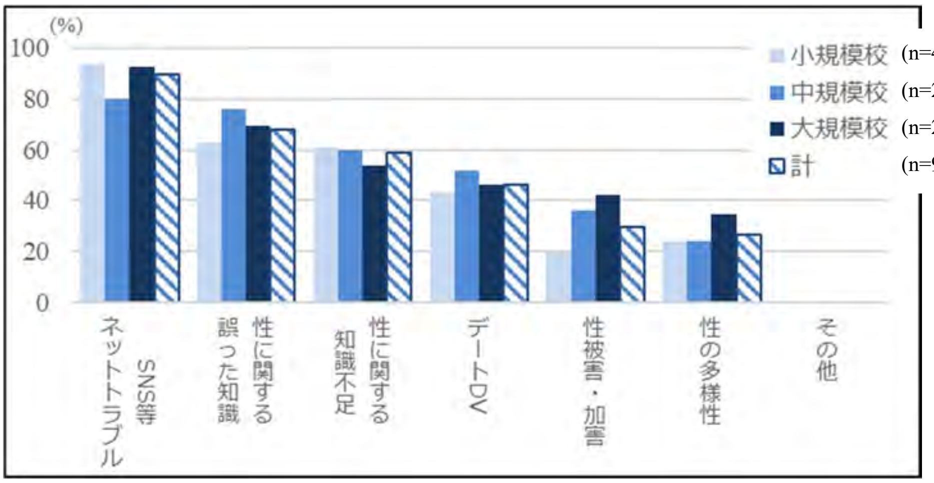

図 31　生徒をとりまく新たな課題（複数回答/生徒数規模別）

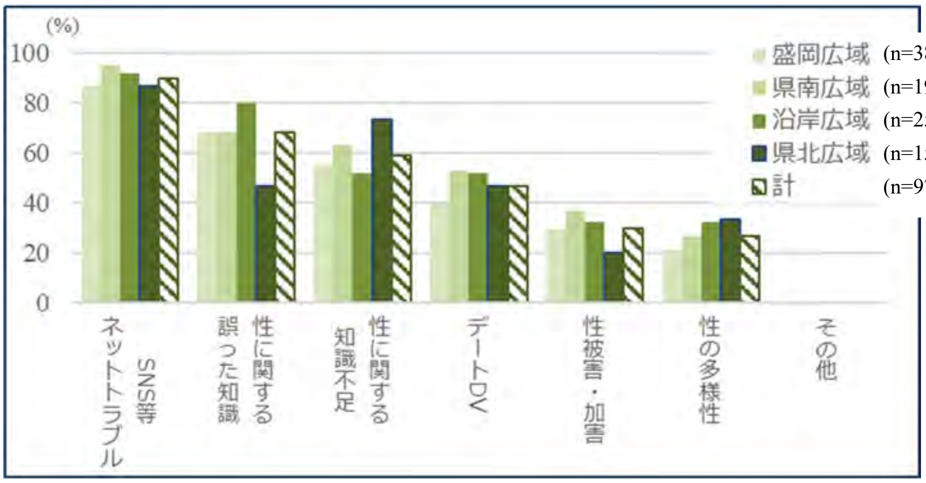

図 32　生徒をとりまく新たな課題（複数回答/広域別）

「生徒をとりまく新たな課題」と「学習指導要領以外の指導」との関連（図 33）では、「性被害・加害」と「学習指導要領以外の指導」との間に有意な関連（調整済みオッズ比 3.26(95%信頼区間:1.27-8.42)）が認められた。

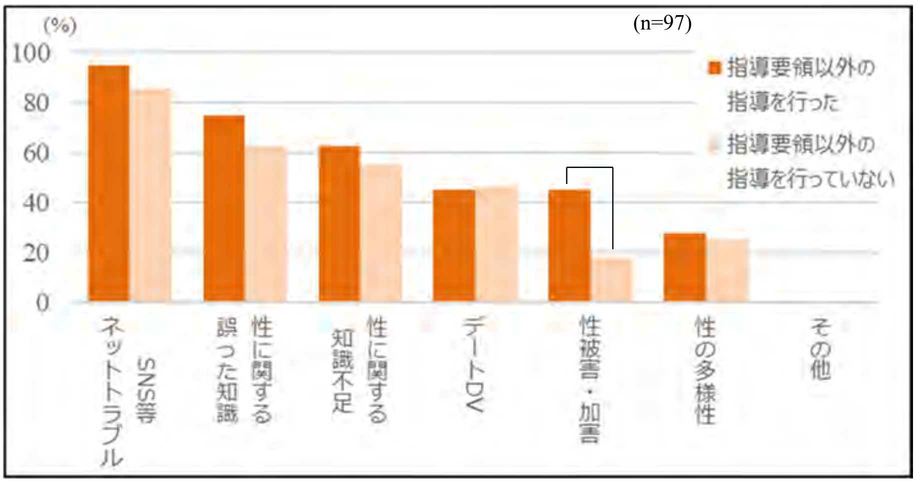

図 33 生徒をとりまく新たな課題と指導要領以外の指導の有無との関連

(7) 性に関する指導についての自由意見（図 34）

性に関する指導についての自由意見について、定量テキスト分析を行った。その共起ネットワークをみると、特徴的なキーワード群が複数確認された。「生徒」「正しい」「知識」などの群、「講師」「指導」などの群、「学習指導要領」「性交渉」「避妊」などの群等、出現頻度及び関連性の高いキーワード群が認められた。

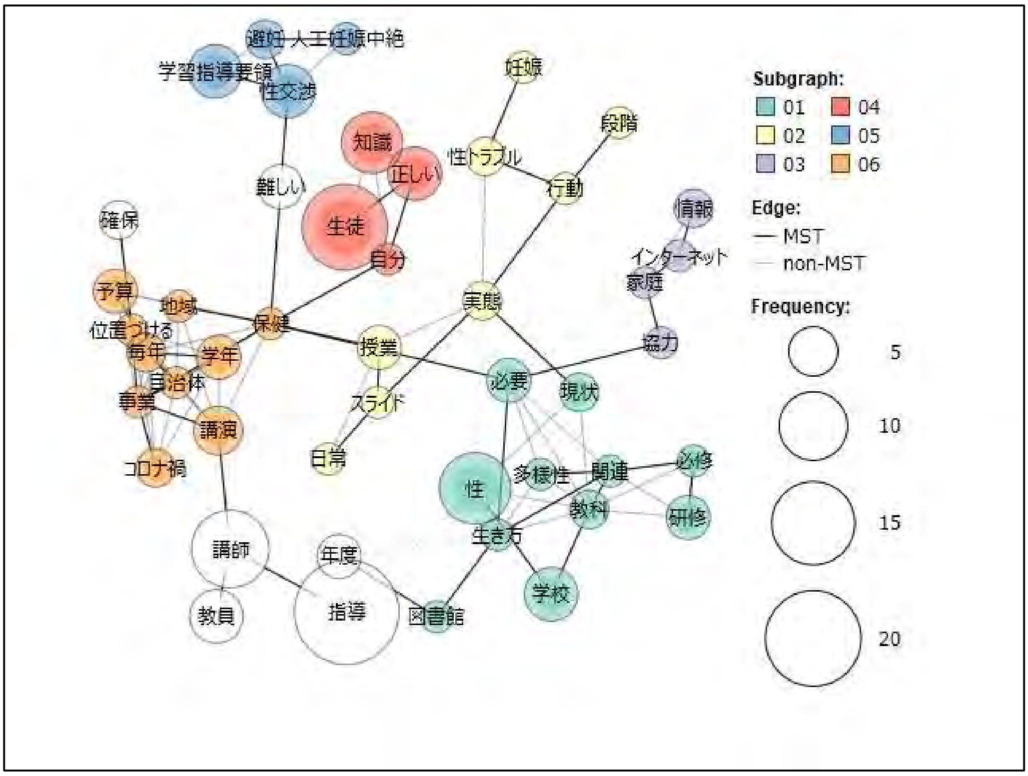

図 34 性に関する指導についての自由意見（共起ネットワーク）

7　考察

(1) 教科学習で行った性に関する指導の実施状況

教科学習で行った性に関する指導で行った時間数の中央値は、道徳科、保健体育科、家庭科、理科、社会科の５教科の合計で、１年生 6.0 時間、２年生 2.0 時間、３年生 9.5 時間、そして学年合計では 20.0 時間という結果であった。保健体育科のみでは、１年生 2.0 時間、２年生 0.0 時間、３年生 2.0 時間であった。2017 年に実施された全国調査[7)]では、１年性３時間、２年生２時間、３年生２時間、学年合計で７時間（いずれも中央値）であり、本県では全国とほぼ同等、またはやや多く教科学習で性に関する指導が行われていると考えられた。

教科間の連携を行っている学校は全体の 8.2%であったが、連携を行っている例として、「道徳科」とほかの教科との連携の例が多かった。中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説保健体育編[8)]において、「保健体育科の年間指導計画の作成などに際して、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び直答に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。」と述べられていることから、道徳教育との関連を意識しながら、性に関する指導を行っていると考えられた。また、文部科学省では、学校における性教育は学校教育活動全体で取り組むべき課題[9)]としてとらえており、今後、各教科を相互に関連付けながら学校の教育活動全体を通じて行えるような教科への資料提供が必要と考えられた。

(2) 特別活動・総合的な学習で行った性に関する指導の実施状況

特別活動・総合的な学習による性に関する指導を行った学校は全体の約 64%であった。これは、実施しなかった約 36%の学校においては、特別活動等による性に関する指導の必要性が低いため実施しなかったわけではなく、調査対象期間は新型コロナウイルス感染症のパンデミックの最中であり、今回調査の自由回答でも「コロナ対策として集団への指導が困難となり、未実施となってしまった。」「令和 3 年度はコロナウイルス対策として、外部講師の方による指導がキャンセルになった。」等の記載があり、生徒が集合状態での特別活動等が避けられていたこともその一因と考えられる。また、小規模校が他の生徒規模の学校と比べて少ない傾向にあったこともコロナ禍に関係しているかもしれない。

特別活動等の内容については外部講師による講演が最も多く、その講師としては助産師が最も多く、また、医師・保健師等の専門職が多かった。学校においては、外部講師に望むものとして「専門的知識」や「体験学習」などがあげられ[10)]、効果的な性に関する指導の充実を目指して授業形態の工夫や配慮がなされる中で、これら専門職の外部講師を活用している結果と考えられた。また、助産師はその職務内容から思春期の子どもへのハイリスク事例と関わる機会も多く、性に関する指導を行う専門職でもある[11)]ことから、学校側のニーズに合致しているものと考えられた。

(3) 性交、避妊法や人工妊娠中絶など、学習指導要領に示されていない指導の実施状況

学習指導要領で記載されているいわゆる「はどめ規定（妊娠の経過は取り扱わないものとする。)」の内容については、40 校（41.2%）の学校で取り扱われている結果であり、その位置づけとして「教科学習」で取り扱っている学校が最も多かった。その理由として「正しい性情報を生徒に理解させるため」、「生徒に性に関する正しい知識を指導し、適切に自己決定を行うことができる力を身に付けさせるため」、「将来のライフプランを考えるときに、知るべき内容であるから」、「発達段階を考えると必要な内容であるから」等であった。

一方、中央教育審議会初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策(答申)では、「各学校において，必要に応じ児童生徒の実態等を踏まえて個性を生かす教育を行う場合には，この規定にかかわらず学習指導要領に示されていない内容を指導することも可能なものである。ところが，その趣旨についての周知が不十分であるため，適切な指導がなされていない状況も見られる。」[12]と述べられている。今回の調査では、教科学習や特別活動等により「はどめ規定」の内容を生徒達に指導する必要があると認識し、実践している学校が約 40%であったと解釈することができる。

また、「はどめ規定」の内容を伝える有効な手段として、助産師等の専門職による特別活動等が行われており、特別活動等が行われなかった学校は、行った学校よりも「はどめ規定」の内容を指導していない学校の割合が高かったこと（オッズ比 2.95(95%CI 1.11-8.40)からも、特別活動等は生徒達に重要な情報を伝える有効な手段であり、「時間の確保」や「予算の確保」という課題があるものの特別活動等による性に関する指導は継続して実施すべきものと考えられた。

(4) 性に関する指導で使用している教材

性に関する指導で教材を使用している学校は、36 校（37%）と半数に満たなかったが、教材を使用している学校では、それぞれ様々なメディアから工夫して入手している様子がうかがわれた。しかし、指導するうえで障害となっていることとして「指導内容や方法に不安」および「教材が少ない」が上位を占めていること、希望する教材としてスライドや動画など、また、メニュー方式などで使う側が自由に組み合わせて使うことができるようなものの要望が多いことなどから、これらの要望に応えられるような教材の提供や適切な指導を行うための研修等の実施が望まれる。

(5) 性に関する指導を行ううえでの課題

性に関する指導で障害になっていることでは、27 校（30%）の学校が「予算の確保が難しい」と回答しており、自治体との連携・協力などにより講師招聘のための適切な予算化が必要と考えられる。また、「時間の確保が難しい」と回答した学校は、そうでない学校よりも「特別活動等を実施していない」割合が有意に高い。中学校では「性に関する指導」のみならず、他にも喫緊の課題が多く存在しているものと思われるが、それぞれの課題について適切な「時間」の確保・分配が必要である。

性に関する指導を行ううえで重点をおいていることについて、「自他を尊重した行動」と「適切な行動選択」がほぼ90%の学校から回答があり、これらの項目を選択した学校は、「特別活動等を行った学校」、また、「指導要領以外の指導を行った学校」の割合が高い傾向にあったことから、生徒の適切な行動を育むためには特別活動等による専門的な指導が学校で必要とされていることが考えられた。

生徒をとりまく新たな課題として「性に関する誤った知識」と「性に関する知識不足」が２位・３位であった。一方、2017年に実施された青少年の性行動調査[13]では、「デート経験率」が中学生では調査開始の1987年から連続して増加傾向にあり、「性交経験率」については、高校生・大学生が 2005 年度をピークに減少傾向にあるにも関わらず、2017年において中学生男子3.7%、中学女子4.5%と横ばいまたは微増の傾向を示している。これは、生徒が自分も相手も大切に適切な行動を送るために、性に関する正しい知識が必要であり、いわゆる「はどめ規定」の内容についても、生徒達の健康課題として指導する必要性が高いことを示していると考えられた。

８　まとめ

今回の調査により中学校において、適切な性に関する指導を行うために必要なことは以下のとおりであると考えられた。

(1) 専門性の高い外部講師による性に関する指導を行うため、特別活動の時間の確保と講師招聘等に係る予算の確保が必要である。

(2) 教職員が使いやすい動画やスライドなどの教材、また、教科間の連携を進めるための資料を提供する必要がある。

(3) 生徒達の自他を尊重した行動や、適切な行動選択が生徒達の大きな課題であり、いわゆる「はどめ規定」の内容を含めた正しい性知識について指導する必要がある。

(4) ほぼ半数の教職員が、性に関する指導の内容や方法について不安を感じていることから、性に関する指導方法に関する研修の実施が必要である。

【引用文献】

1) 「性教育の実施状況に関するアンケート調査」，平成 17 年 2 月，岩手県医師会思春期保健対策委員会

2) 衛生行政報告例（厚生労働省），【第 9 章 母体保護】第 7 表 人工妊娠中絶実施率（女子人口千対）年齢階級・都道府県別，令和 2 年度

3) 「岩手県の高校生の生と性に関する調査」，岩手県高等学校教育研究会学校保健部会 平成 25・26 年度研究調査推進事業，平成 27 年 3 月 31 日

4) 学習指導要領 中学校，平成 29 年 3 月告示

5) 性犯罪・性暴力対策の強化の方針の決定について（通知），令和 2 年 6 月 11 日 2 文科教第 253 号

6) 国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】 ユネスコ偏，（株）明石書店 2020 年 8 月 10 日

7) 日本の中～大規模中学校の教育課程における性教育の位置づけ，現代性教育研究ジャーナル，日本性教育協会，No.136，2022 年 7 月 15 日

8) 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 保健体育編，文部科学省，p236，平成 29 年 7 月

9) 健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会これまでの審議の状況-すべての子どもたちが身に付けているべきミニマムとは？-， 文部科学省中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会健やかな体を育む教育のあり方に関する専門部会，平成 17 年 7 月 27 日，https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05091401.htm（最終閲覧 2023/10/13）

10) 小学校で行われる性教育の現状と課題，小川真由子，鈴鹿大学学術機関リポジトリ，2015 年 3 月 10 日

11) 助産師の専門性を活かした学校における性教育に関する研究，田中成子，兵庫教育大学学術情報リポジトリ，2011 年 3 月

12) 学習指導要領の「基準性」の一層の明確化，初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について（答申），中央教育審議会，2003 年 10 月 7 日，https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1399857.htm（最終閲覧 2023/10/18）

13) 「若者の性」白書 第 8 回青少年の性行動全国調査報告，日本性教育協会編，小学館，2019 年 8 月 1 日

資 料 編

1　学校の属性

(1) 生徒数規模と所在地域別学校数

	盛岡広域	県南広域	沿岸広域	県北広域	計	p値※
小規模校	16	6	15	9	46	
中規模校	9	7	5	4	25	0.410
大規模校	13	6	5	2	26	
計	38	19	25	15	97	

※：Fisher's exact test

(2) 回答者職種（複数回答）

(n=97)

	養護教諭	教員	保健主事	教務主任	副校長	校長	その他
件数（%）	73 (75.3)	50 (51.5)	24 (24.7)	14 (14.4)	8 (8.2)	2 (2.1)	2 (2.1)

その他：生徒指導主事兼保健体育主任
保健体育科主任

2 教科学習で行った性に関する指導の実施状況

(1) 時間数（生徒数規模別）

			小規模校				中規模校				大規模校				計							
			1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	1年生	(p値)※	2年生	(p値)※	3年生	(p値)※	計	(p値)※
道徳科	データ数	回答数	38	36	37	36	15	15	15	15	22	22	22	22	75		73		74		73	
		無回答数	8	10	9	10	10	10	10	10	4	4	4	4	22		24		23		24	
	四分位値	100%	14.0	14.0	14.0	42.0	35.0	35.0	35.0	105.0	10.0	14.0	25.0	36.0	35.0		35.0		35.0		105.0	
		75%	3.0	5.0	4.0	11.0	4.5	3.5	3.5	10.5	5.0	5.8	5.8	16.5	4.0		5.0		4.8		12.0	
		50%	1.0	1.0	1.0	4.0	2.0	1.0	2.0	5.0	2.0	3.0	3.0	8.0	2.0	0.190	2.0	0.164	2.0	0.179	6.0	0.293
		25%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.3	1.3	1.3	3.5	0.0		0.0		0.3		1.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	
保健体育科	データ数	回答数	44	42	44	42	21	19	19	18	26	26	26	26	91		87		89		86	
		無回答数	2	4	2	4	4	6	6	7	0	0	0	0	6		10		8		11	
	四分位値	100%	13.0	15.0	11.0	39.0	18.0	18.0	18.0	54.0	9.0	2.0	7.0	17.0	18.0		18.0		18.0		54.0	
		75%	4.3	2.0	2.6	10.0	4.0	2.0	2.5	6.0	5.0	0.8	2.8	8.0	4.0		2.0		3.0		8.0	
		50%	4.0	0.0	2.0	6.0	3.0	0.0	2.0	5.0	4.0	0.0	2.0	6.0	4.0	0.353	0.0	0.190	2.0	0.835	6.0	0.670
		25%	2.0	0.0	1.8	4.0	3.0	0.0	1.5	5.0	3.0	0.0	1.0	4.0	3.0		0.0		1.0		4.0	
		0%	1.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	3.0	0.0		0.0		0.0		2.0	
家庭科	データ数	回答数	34	34	35	34	11	12	13	10	22	22	22	22	67		68		70		66	
		無回答数	12	12	11	12	14	13	12	15	4	4	4	4	30		29		27		31	
	四分位値	100%	21.0	21.0	7.0	42.0	2.0	35.0	17.0	19.0	4.0	3.0	10.0	14.0	21.0		35.0		17.0		42.0	
		75%	2.0	0.0	2.0	4.0	1.0	0.0	3.0	4.0	2.0	0.8	5.0	6.0	2.0		0.0		3.0		5.6	
		50%	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.5	0.0	2.5	4.0	0.0	0.569	0.0	0.693	1.5	0.004	2.0	0.044
		25%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.3	0.0		0.0		0.0		0.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	
理科	データ数	回答数	34	34	36	34	13	13	13	13	22	22	22	22	69		69		71		69	
		無回答数	12	12	10	12	12	12	12	12	4	4	4	4	28		28		26		28	
	四分位値	100%	2.0	2.0	16.0	18.0	105.0	140.0	140.0	385.0	5.0	10.0	9.0	20.0	105.0		140.0		140.0		385.0	
		75%	0.0	0.0	3.0	3.0	1.0	0.0	4.0	4.0	0.8	1.0	5.0	6.0	0.0		0.0		3.5		4.5	
		50%	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0	3.0	3.5	0.0	0.098	0.0	0.371	2.0	0.075	3.0	0.022
		25%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	2.0	2.3	0.0		0.0		0.0		0.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	
社会科	データ数	回答数	35	34	35	34	13	13	14	13	21	22	22	21	69		69		71		68	
		無回答数	11	12	11	12	12	12	11	12	5	4	4	5	28		28		26		29	
	四分位値	100%	5.0	5.0	16.0	23.0	105.0	105.0	140.0	350.0	25.0	30.0	40.0	95.0	105.0		105.0		140.0		350.0	
		75%	0.0	0.8	3.0	4.3	1.0	2.0	3.8	5.5	0.0	0.0	3.0	4.8	0.0		1.0		3.0		5.0	
		50%	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.5	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.856	0.0	0.463	2.0	0.652	3.0	0.610
		25%	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0		0.0		1.0		1.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	

※：Kruskal-Wallis test

(2) 時間数（広域別）

			盛岡広域				県南広域				沿岸広域				県北広域				計							
			1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	1年生	(p値)※	2年生	(p値)※	3年生	(p値)※	計	(p値)※
道徳科	データ数	回答数	32	32	32	32	13	13	13	13	17	17	17	17	13	11	12	11	75		73		74		73	
		無回答数	6	6	6	6	6	6	6	6	8	8	8	8	2	4	3	4	22		24		23		24	
	四分位値	100%	16.0	14.0	14.0	42.0	5.0	9.0	25.0	35.0	10.0	14.0	14.0	37.0	35.0	35.0	35.0	105.0	35.0		35.0		35.0		105.0	
		75%	5.0	4.3	5.0	15.0	3.0	3.0	3.0	9.0	5.0	5.0	5.0	14.3	2.0	4.5	2.5	9.0	4.0		5.0		4.8		12.0	
		50%	2.0	2.0	2.0	7.0	1.0	1.0	2.0	5.0	3.0	4.0	2.0	8.0	1.0	2.0	1.0	3.0	2.0	0.294	2.0	0.601	2.0	0.795	6.0	0.741
		25%	0.8	0.0	0.8	1.8	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.3		1.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	
保健体育科	データ数	回答数	35	32	34	32	17	17	16	16	24	23	24	23	15	15	15	15	91		87		89		86	
		無回答数	3	6	4	6	2	2	3	3	1	2	1	2	0	0	0	0	6		10		8		11	
	四分位値	100%	13.0	15.0	11.0	39.0	9.0	2.0	4.0	13.0	11.0	4.0	5.0	13.0	18.0	18.0	18.0	54.0	18.0		18.0		18.0		54.0	
		75%	4.0	2.0	2.0	8.0	4.0	0.0	2.3	6.0	5.0	1.0	2.1	9.3	4.0	2.0	3.5	9.0	4.0		2.0		3.0		8.0	
		50%	4.0	0.5	2.0	6.0	4.0	0.0	2.0	5.5	3.0	0.0	2.0	5.5	4.0	0.0	2.0	6.0	4.0	0.973	0.0	0.142	2.0	0.940	6.0	0.526
		25%	3.0	0.0	1.3	5.0	3.0	0.0	1.8	3.3	2.0	0.0	1.0	4.0	3.0	0.0	1.5	5.0	3.0		0.0		1.0		4.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	3.0	2.0	0.0	0.0	3.0	0.0		0.0		0.0		2.0	
家庭科	データ数	回答数	31	31	31	31	12	12	12	12	15	16	17	15	9	9	10	8	67		68		70		66	
		無回答数	7	7	7	7	7	7	7	7	10	9	8	10	6	6	5	7	30		29		27		31	
	四分位値	100%	21.0	21.0	17.0	42.0	5.0	2.0	10.0	14.0	5.0	1.0	7.0	12.0	3.0	35.0	17.0	11.0	21.0		35.0		17.0		42.0	
		75%	2.0	0.0	4.5	6.0	1.3	1.0	2.0	4.0	1.5	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	2.0	2.5	2.0		0.0		3.0		5.6	
		50%	0.0	0.0	2.0	3.5	0.5	0.0	1.0	3.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.569	0.0	0.599	1.5	0.512	2.0	0.334
		25%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	
理科	データ数	回答数	31	31	31	31	12	12	12	12	16	16	17	16	10	10	11	10	69		69		71		69	
		無回答数	7	7	7	7	7	7	7	7	9	9	8	9	5	5	4	5	28		28		26		28	
	四分位値	100%	2.0	3.0	16.0	18.0	5.0	10.0	6.0	20.0	2.0	2.0	8.0	8.0	105.0	140.0	140.0	385.0	105.0		140.0		140.0		385.0	
		75%	0.5	0.5	3.5	6.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	0.0	3.0	4.0	0.0	0.8	3.5	3.5	0.0		0.0		3.5		4.5	
		50%	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.494	0.0	0.618	2.0	0.708	3.0	0.527
		25%	0.0	0.0	0.5	1.0	0.0	0.0	1.8	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	
社会科	データ数	回答数	30	31	32	30	12	12	12	12	16	16	17	16	11	10	10	10	69		69		71		68	
		無回答数	8	7	6	8	7	7	7	7	9	9	8	9	4	5	5	5	28		28		26		29	
	四分位値	100%	25.0	30.0	40.0	95.0	3.0	10.0	60.0	73.0	5.0	3.0	16.0	23.0	105.0	105.0	140.0	350.0	105.0		105.0		140.0		350.0	
		75%	0.8	1.0	3.0	4.3	0.0	0.0	2.5	2.5	0.3	0.3	4.0	6.0	0.5	1.0	3.0	4.5	0.0		1.0		3.0		5.0	
		50%	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.932	0.0	0.752	2.0	0.159	3.0	0.159
		25%	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0		0.0		1.0		1.0	
		0%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	

※：Kruskal-Wallis test

(3) 教科間の連携 （生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計		p値※
行った	(%)	1	(2.2)	4	(16.0)	3	(11.5)	8	(8.2)	0.075
行っていない	(%)	44	(95.7)	20	(80.0)	23	(88.5)	87	(89.7)	
無回答	(%)	1	(2.2)	1	(4.0)	0	(0.0)	2	(2.1)	
計		46		25		26		97		

※：Fisher's exact test

(4) 教科間の連携 （広域別）

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計		p値※
行った	(%)	5	(13.2)	2	(10.5)	1	(4.0)	0	(0.0)	8	(8.2)	0.438
行っていない	(%)	32	(84.2)	17	(89.5)	23	(92.0)	15	(100.0)	87	(89.7)	
無回答	(%)	1	(2.6)	0	(0.0)	1	(4.0)	0	(0.0)	2	(2.1)	
計		38		19		25		15		97		

※：Fisher's exact test

教科間の連携の例
保健体育と道徳。
道徳において「男女平等」「生命誕生」等を取り扱っている。
LGBTQに関して教科（教職員）間での連携を図った。全教職員参加の研修会で、LGBTQについて理解を深めた。
社会科の授業において、道徳及び国語の授業との連携を図った。
各教科、道徳での指導内容を把握する。
学校行事、特別活動等と連携して実施した。また、日常の会話等で連携を図った。
1学年保健体育の授業「生殖機能の成熟」「異性の尊重と性情報への対処」と、3学年保健体育の授業「性感染症の予防」「エイズの予防」のときに連携を行った。

3　特別活動・総合的な学習で行った性に関する指導の実施状況

(1) 特別活動・総合的な学習における指導（生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計		p値※1	効果量(w)※2
行った	(%)	23	(50.0)	20	(80.0)	19	(73.1)	62	(63.9)	0.023※3	0.78
行っていない	(%)	23	(50.0)	5	(20.0)	7	(26.9)	35	(36.1)		
無回答	(%)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)		
計		46		25		26		97			

※1：Fisher's exact test
※2：効果量の解釈;w=0.1～0.3:小さい,w=0.3～0.5:中くらい,w>0.5:大きい
※3：小規模校と中規模校についてp=0.064（Bonferroniの多重比較）

(2) 特別活動・総合的な学習における指導　（広域別）

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計		p値※
行った	(%)	26	(68.4)	12	(63.2)	14	(56.0)	10	(66.7)	62	(63.9)	0.793
行っていない	(%)	12	(31.6)	7	(36.8)	11	(44.0)	5	(33.3)	35	(36.1)	
無回答	(%)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	
計		38		19		25		15		97		

※：Fisher's exact test

(3) 特別活動等の形態（複数回答）

		１年生		２年生		３年生	
	n	35		36		50	
外部講師	(%)	28	(80.0)	29	(80.6)	41	(82.0)
教職員	(%)	5	(14.3)	3	(8.3)	5	(10.0)
共同	(%)	1	(2.9)	3	(8.3)	5	(10.0)
その他	(%)	1	(2.9)	1	(2.8)	1	(2.0)

その他：　スクールカウンセラーによる指導

(4) 特別活動等の講師（複数回答）

		１年生		２年生		３年生		計	
	n	35		36		50		121	
助産師	(%)	14	(40.0)	15	(41.7)	23	(46.0)	52	(43.0)
大学教員	(%)	5	(14.3)	6	(16.7)	8	(16.0)	19	(15.7)
医師	(%)	5	(14.3)	4	(11.1)	6	(12.0)	15	(12.4)
産婦人科医	(%)	1	(2.9)	4	(11.1)	5	(10.0)	10	(8.3)
保健師	(%)	1	(2.9)	3	(8.3)	4	(8.0)	8	(6.6)
看護師	(%)	0	(0.0)	1	(2.8)	2	(4.0)	3	(2.5)
その他	(%)	5	(14.3)	4	(11.1)	4	(8.0)	13	(10.7)

その他：　スクールカウンセラー
副校長
NPO法人
BLT岩手
岩手県男女共同参画センター
警察
いわて思春期研究会
看護学部大学生

(5) 特別活動等を行った時間数 （学年別）

		1年生	2年生	3年生	学年合計	p値※2
n※1		34	34	48	61	
四分位値	100%	4.0	2.0	4.0	8.0	
	75%	1.0	2.0	2.0	3.0	
	50%	1.0	1.0	1.0	2.0	
	25%	1.0	1.0	1.0	2.0	0.545
	0%	1.0	1.0	1.0	1.0	
平均		1.44	1.32	1.50	2.72	
標準偏差		0.79	0.47	0.68	1.67	

※1：特別活動等を行った学校のみを計算対象とした

※2：1～3年を対象としたKruskal-Wallis test

(6) 特別活動等を行った学校の度数分布 （時間数・学年別）

		1年生	2年生	3年生	学年合計
特別活動等を行った時間数	1時間	23	23	28	13
	2時間	9	11	17	20
	3時間	0	0	2	17
	4時間	2	0	1	4
	5時間	0	0	0	1
	6時間	0	0	0	3
	7時間	0	0	0	1
	8時間	0	0	0	2
	行っていない	63	63	49	36

(7) 特別活動等の内容（自由回答）

1年内容	2年内容	3年内容
生命の誕生、男女のかかわり、心身の成長、性に関する意思決定・行動選択、性感染症、自他を大切にする生き方	生命の誕生、男女のかかわり、心身の成長、性に関する意思決定・行動選択、性感染症、自他を大切にする生き方	生命の誕生、男女のかかわり、心身の成長、性に関する意思決定・行動選択、性感染症、自他を大切にする生き方
LGBTQ＋、性の多様性、人権尊重	生命尊重、自他を大切にする生き方、SOSの出し方	生命尊重、自他を大切にする生き方、メタ認知
・性の問題に対する適切な意思決定や行動選択 ・異性との関わり	・性の問題に対する適切な意思決定や行動選択・心身の成長・異性との関わり・自他を大切にする生き方	・自他を大切にする生き方　・心身の成長
いのちの授業（自他を大切にする生き方）	いのちの授業（自他を大切にする生き方）	いのちの授業（自他を大切にする生き方）
		思春期の心身の成長・発達についての理解、生徒自身の生き方について
思春期講話会	思春期講話会	思春期講話会
自分と相手を大切にする　ソーシャルスキルトレーニング	思春期の心と身体の成長　自他を大切にすること	思春期について　出産・妊娠について
LGBT	LGBT	LGBT
いのちの誕生	いのちの大切さ～生と性の知識と責任～	命と性の大切さ～若者の性の問題と男女交際～
生殖機能の成熟、異性	いのちの誕生	自他尊重等
生命の誕生、妊娠出産、中絶、性感染症	生命の誕生、妊娠出産、中絶、性感染症	生命の誕生、妊娠出産、中絶、性感染症
	自分を大切に　相手も大切に	「いのち・性」
自分や他者への向き合い方について	生の問題、命の問題	
		”おとな”に近づいている今、知っておいてほしいこと
お互いを尊重する関係の築き方	生と性を考える学習会	生命誕生と赤ちゃん人形ふれあい体験
生と性の学習「いのちのバトン　未来のあなたへ」		
		思春期の心身の変化や特性、恋愛、生命誕生、命の大切さ、望まない妊娠を避ける、自他の尊重

1年内容	2年内容	3年内容
	性感染症、命の大切さ、異性との付き合い方・コミュニケーション	性感染症、命の大切さ、異性との付き合い方・コミュニケーション
異性の尊重と生命誕生	異性の尊重と生命誕生	異性の尊重と生命誕生
	多様な性・LGBTについて	
		15歳のあなたへ～生と性のお話～生命創造、生命誕生、性のトラブルや予期しない妊娠について、多様な性について
		中学生の生と性　今、大切なこと
異性との付き合い方を学ぼう	異性との付き合い方を学ぼう	異性との付き合い方を学ぼう 命について考えよう
体の発育、心の発達、異性の尊重		思春期の心身の変化　性感染症予防　生命尊重
生命誕生、命のつながり。赤ちゃん人形抱っこ体験、妊婦体験。相互理解、相手の良いところを伝え合うスキル体験。	生命誕生、命のつながり。赤ちゃん人形抱っこ体験、妊婦体験。相互理解、相手の良いところを伝え合うスキル体験。	生命誕生、命のつながり。赤ちゃん人形抱っこ体験、妊婦体験。相互理解、相手の良いところを伝え合うスキル体験。
	性犯罪	
心とからだの健康観察	心とからだの健康観察	心とからだの健康観察
	思春期の心と体の変化	
	生命誕生・生命尊重	性自認・異性との関わり方、LGBTQ等
命の大切さ	思春期の心の健康	
自分が人生の主人公になるために	自分が人生の主人公になるために	自分が人生の主人公になるために
生命尊重	医学的アプローチからの性	多様性を生きる
		思春期の性
いのちの授業		
		思春期の心と体について正しい知識を学ぼう
心身の発達、命あることの素晴らしさ、他への思いやりとこれからの生き方		思春期の心身の成長、生命の誕生、これからの生き方
生命誕生と生命の尊重	生命誕生と生命尊重	生命誕生と生命の尊重
人と人との関わりを重視した異性関係	生と性に関わる講演	

1年内容	2年内容	3年内容
		デートDV
中学生の心と体　～自分を大切に、お互いの良さを認め会おう～		
中学生の君たちへ	中学生の君たちへ	
「大人に近づく君たちへ」（命の誕生と尊さ、二次性徴、性的同意、自己決定等）		
		命の誕生、自他ともに尊重する心、性のトラブルや意思決定、行動選択
	命の誕生　助産師さんからの伝えてたいこと	思春期はまってかだって教室　性とコミュニメーション
		15歳のあなたへ～生と性のお話～
生命の誕生、男女の発育・発達や変化・特性、自他の尊重		
命の大切さ 「生きるための心の教育」ー大切な自分の人生を守っていくためにー	「お互いを尊重できる関係の築き方」ーデートDVについて知ろう！ー	「思春期の君たちへ」
	つながれ命～性と生を考えてみよう～	なりたい自分に向かって～性と生を考えてみよう～
	今、ここにいる。それだけで１００点満点　命の誕生、生と死について他	中学生の君たちへ　　妊娠、中絶、性感染症について、性被害（DVも含め）
生命誕生のしくみ、二次性徴について、生命の大切さ		
		ライフスキルについて　と　デートDV
思春期の心と体	思春期の心と体	思春期の心と体
		思春期の心とからだ～自分と他者を大切にするために～
		中学生の生と性　生命の誕生　生命の創造　性感染症について
		ライフスキル講演会・・・「中学3年生の君たちへ」生の問題・命の問題～是非とも知ってほしいこと・知らなくてはいけないこと～

1年内容	2年内容	3年内容
生命の誕生	思春期の心とからだ	妊娠と出産、性病について
思春期の心とからだ	14歳のあなたへ～生と性のお話し～	１５歳のあなたへ～生と性のお話し～
		思春期の心と体を正しく捉え、「思春期の性」に関する知識を深める ・命の誕生 ・思春期の心と体の変化 ・多様な性 ・性のトラブル
		命の責任　生と性を生きる
		生と性
		思春期の性について

4　性交、避妊法や人工妊娠中絶など、学習指導要領に示されていない指導の実施状況

(1) 指導要領以外の指導　（生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計		p値※
行った	(%)	19	(41.3)	7	(28.0)	14	(53.8)	40	(41.2)	0.223
行っていない	(%)	27	(58.7)	17	(68.0)	12	(46.2)	56	(57.7)	
無回答	(%)	0	(0.0)	1	(4.0)	0	(0.0)	1	(1.0)	
計		46		25		26		97		

※：Fisher's exact test

(2) 指導要領以外の指導　（広域別）

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計		p値※1
行った	(%)	12	(31.6)	8	(42.1)	15	(60.0)	5	(33.3)	40	(41.2)	0.106※2
行っていない	(%)	26	(68.4)	11	(57.9)	9	(36.0)	10	(66.7)	56	(57.7)	
無回答	(%)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(4.0)	0	(0.0)	1	(1.0)	
計		38		19		25		15		97		

※1：Fisher's exact test

※2：盛岡広域と沿岸広域p=0.12(Bonferroniの多重比較)

(3) 指導要領以外の指導 と特別活動等の実施状況との関連

			特別活動等による指導を行ったか				計		p値※1	効果量(φ)※2	オッズ比(95%CI)※3	
			行った		行っていない							
指導要領以外の指導を行ったか	行った	(%)	31	(50.8)	9	(25.7)	40	(41.7)	0.019	0.25	2.95	(1.11-8.40)
	行っていない	(%)	30	(49.2)	26	(74.3)	56	(58.3)				
計			61		35		96					

※1：Fisher's exact test

※2：効果量の解釈；ϕ=0.1～0.3:小さい，ϕ=0.3～0.5:中くらい，ϕ>0.5:大きい

※3：条件付き最尤推定量（conditional MLE）

(4) 指導した内容（複数回答／生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計		p値※
	n	19		12		14		40		
望まない妊娠	(%)	17	(89.5)	7	(58.3)	11	(78.6)	35	(87.5)	0.144
人工妊娠中絶	(%)	13	(68.4)	3	(25.0)	8	(57.1)	24	(60.0)	0.075
避妊法	(%)	11	(57.9)	3	(25.0)	7	(50.0)	21	(52.5)	0.200
性交	(%)	4	(21.1)	3	(25.0)	7	(50.0)	14	(35.0)	0.213
その他	(%)	2	(10.5)	0	(0.0)	2	(14.3)	4	(10.0)	0.550

※：Fisher's exact test

(5) 指導した内容（複数回答／広域別）

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計		p値※
	n	12		8		15		5		40		
望まない妊娠	(%)	10	(83.3)	7	(87.5)	14	(93.3)	4	(80.0)	35	(87.5)	0.773
人工妊娠中絶	(%)	6	(50.0)	3	(37.5)	12	(80.0)	3	(60.0)	24	(60.0)	0.193
避妊法	(%)	3	(25.0)	5	(62.5)	10	(66.7)	3	(60.0)	21	(52.5)	0.160
性交	(%)	3	(25.0)	2	(25.0)	7	(46.7)	2	(40.0)	14	(35.0)	0.671
その他	(%)	0	(0.0)	1	(12.5)	2	(13.3)	1	(20.0)	4	(10.0)	0.410

※：Fisher's exact test

その他： 異性とのかかわり
デートDV
LGBTQ+
口頭で触れる程度

(6) 指導要領以外の指導の位置づけ（複数回答／生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計	
	n	19		12		14		40	
教科学習	(%)	13	(68.4)	3	(42.9)	3	(21.4)	19	(47.5)
特別学習	(%)	4	(21.1)	3	(42.9)	6	(42.9)	13	(32.5)
総合的な学習	(%)	3	(15.8)	1	(14.3)	5	(35.7)	9	(22.5)
その他	(%)	1	(5.3)	1	(14.3)	0	(0.0)	2	(5.0)

(7) 指導要領以外の指導の位置づけ(複数回答／広域別)

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計	
	n	12		8		15		5		40	
教科学習	(%)	2	(16.7)	4	(50.0)	10	(66.7)	3	(60.0)	19	(47.5)
特別学習	(%)	3	(25.0)	3	(37.5)	5	(33.3)	2	(40.0)	13	(32.5)
総合的な学習	(%)	7	(58.3)	1	(12.5)	1	(6.7)	0	(0.0)	9	(22.5)
その他	(%)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(6.7)	1	(20.0)	2	(5.0)

その他： 学級活動
個別指導

(8) 指導要領以外の指導の位置づけ（複数回答）

		望まない妊娠		人工妊娠中絶		避妊法		性交		その他	
	n	35		24		21		14		4	
教科学習	(%)	19	(54.3)	13	(54.2)	15	(71.4)	8	(57.1)	2	(50.0)
特別活動	(%)	10	(28.6)	6	(25.0)	6	(28.6)	5	(35.7)	0	(0.0)
総合的な学習	(%)	8	(22.9)	7	(29.2)	1	(4.8)	2	(14.3)	1	(25.0)
その他	(%)	1	(2.9)	1	(4.2)	1	(4.8)	1	(7.1)	1	(25.0)

(9) 指導要領以外の指導を行った理由

指導要領以外の指導を行った理由
県内で１０代の人工妊娠中絶が増えている状況を踏まえて指導されたようだ。
単元通りに行っている。
命の尊さについて理解させるため。また、現在の年齢で性交渉を行うとどのようなことになるのか性行動への考えを深めさせるため。性交渉にしても、避妊にしても知らないからこそ安易に考え行為に及んでしまうと感じる。リスクや知識などを知っておくことは自分や相手を守ることにつながると考えたため指導している。
正しい性情報を生徒に理解させるため。
助産師経験のある講師の方から生徒たちに伝えたいことを話していただいた。
生徒たちの将来に必要な内容であると判断したから。
性に関する知識の不足によって生徒の心身の健康が損なわれることがないようにするため。
現在の社会の状況を踏まえ、生徒たちに性に対する正しい知識や向き合い方について、専門的な立場から指導してもらいたかった
生徒の多くがSNSを利用しており、そこから偏った情報が安易に入手できるため、正しい情報を伝え、性について考えさせたいから。
産婦人科の医師から、中学生の時期に知っておくべきことを伝えてもらいたいから。
外部講師による講演内容に含まれている。
望まない妊娠を避けるためや性感染症予防、自他を大切にすることを伝えるために、総合的な学習の時間で、外部講師と教員と養護教諭が性に関する指導を行っている。
教科書の内容に　性感染症　 異性の尊重と性情報 があるから。
生徒に性に関する正しい知識を指導し、適切に自己決定を行うことができる力を身に付けさせるため。
社会的現状を鑑み、講師の方（産婦人科医）が必要と判断しお話ししてくださっている。学校側も、この時期にこのような内容を伝えることは適切と判断している。
将来のライフプランを考えるときに、知るべき内容であるから。
発達段階を考えると必要な内容であるから。
外部講師による講演での指導。
生徒のスマートフォン等の個人保有率が高くなっており、インターネット等で様々な情報に触れやすい環境にある。正しい情報と間違っている情報を選択していくための正しい知識を持つことの重要性を感じていたため。
生命誕生と生命の尊重。
人生において大切な情報であり、生徒に伝える必要があると考えるため。
今後生徒が生きていく上で必要な情報だから。
過去に十代の望まない妊娠をする人が多かったとのこと、特に岩手県の女子は高校に進学する前の春休みに注意が必要であるとの思春期保健対策委員会のお話によるので、３年生には必要と考える。また、講師は対策委員会のお一人である。
予期せぬ妊娠により、生まれ出ることが出来なかった命があることに気づかせ、責任ある行動選択ができるようにするため。
妊娠や性感染症の補足説明として必要だから。
生きていく上で必要な知識であり、自分を守ったり、相手を大切にするために指導している。
使用している教科書に記載されているため。
自分や相手を大切にすることを理解させるため。
1学年において、思春期の体の変化と生殖機能の充実について。

5　性に関する指導で使用している教材

(1) 教材を使用しているか　（生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計		p値※1
使用した	(%)	18	(39.1)	10	(40.0)	8	(30.8)	36	(37.1)	0.734
使用していない	(%)	27	(58.7)	14	(56.0)	18	(69.2)	59	(60.8)	
無回答	(%)	1	(2.2)	1	(4.0)	0	(0.0)	2	(2.1)	
計		46		25		26		97		

※1：Fisher's exact test

(2) 教材を使用しているか　（広域別）

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計		p値※1	効果量(w)※2
使用した	(%)	12	(31.6)	6	(31.6)	15	(60.0)	3	(20.0)	36	(37.1)	0.035※3	0.80
使用していない	(%)	25	(65.8)	13	(68.4)	9	(36.0)	12	(80.0)	59	(60.8)		
無回答	(%)	1	(2.6)	0	(0.0)	1	(4.0)	0	(0.0)	2	(2.1)		
計		38		19		25		15		97			

※1：Fisher's exact test
※2：効果量の解釈;w=0.1～0.3:小さい,w=0.3～0.5:中くらい,w>0.5:大きい
※3：沿岸広域が盛岡、県南、県北に対してそれぞれp=0.200,p=0.400,p=0.120（Bonferroniの多重比較）

(3) 教材の由来（複数回答）

(n=36)

		独自に作成		他から入手		その他	
件数（%）	(%)	17	(47.2)	17	(47.2)	10	(27.8)

その他：　教科書、ワーク。
前任の先生が用紙してくださった教材と独自に作成した教材、講師の先生の独自の教材。
Youtubeチャンネルを用いた。
思春期保健出前講座の資料。
「新　中学生の道徳　明日への扉」「どう解く？」
保健体育教科書。
講師が作成したスライド、赤ちゃん人形、妊婦体験エプロン。
赤ちゃん人形　妊婦ジャケット。
教科書に避妊、中絶、望まない妊娠という言葉が出てくるので、説明のみにとどめている。
中１→大修館　最新中学保健体育　　中３→東京書籍　新編新しい保健体育。

(4) 教材の内容

教材の内容
生理指導、男女のかかわり、デートＤＶ、ＬＧＢＴＱ。
赤ちゃん人形、妊婦ジャケット。
教科書、ワーク。
パワーポイント、プリント。
Youtubeチャンネルを用いた。内容はLGBTQの説明と学校内での望ましい対応の仕方。
月経について。
パワーポイントのスライド、NHKforSchoolの動画。
受精、妊娠、生殖機能の発達についての動画資料（youtube)。
教科書会社から出ている教材。
講師作成のスライドと学校が作成したワークシート。
教科書（保健体育）、保健指導おたすけパワーポイントブック。
未来はカラダからだ！by omron。
受精の様子をCGを使って示した視覚教材。
講師が作成したパワーポイント。
赤ちゃん人形　スライド。
教科書 資料集 NHK for school。
ＷＹＳＨ教育。
生命の誕生。
助産師さんが作成してくださった資料。
手作りの赤ちゃん人形。
東京書籍。
中１→男女の生殖機能の発達について　中３→性感染症、エイズについて、その予防。
東京書籍　保体学習ノートに付属しているパワーポイント資料。
保健学習の際、パワーポイントを活用して指導している。

(5) 希望する教材

希望する教材
10分程度の動画（性的マイノリティの当事者のお話、生命誕生までの経過など）。
イラストや写真などの素材、パワーポイントの例など。
DVD教材。
性に関する指導の目的別に作られたスライドが欲しいです。生徒の実態に沿って独自に作り変えることができるものが望ましいです。(WYSHプロジェクトやPNY性教育プログラム等のスライドを使ったことがあります。)
教科書関係以外の資料がないので、資料やDVDなどがあればよい。
20分程度の動画資料。
性行や避妊について分かりやすく説明してくれる映像。
男女共習でも気兼ねなく視聴できるDVD教材。
発達段階別のパワーポイント等。
ＤＶＤ。
1学年、2学年、3学年と学年に応じた、指導教材があると助かります。
授業ではなかなか取り扱うことが難しいデリケートな部分をわかりやすく説明してあるもの。
スライド資料（パワーポイントなど）。
スライド(教科書に沿った内容、順番でのスライド)、クイズ形式の教材。
赤ちゃん人形、妊婦疑似体験、ＤＶＤ。
望まない妊娠をさせないために、人工中絶で使う機材やその経験談。
産婦人科医の手記、助産師の手記　（現場の声を授業で抜粋して伝えたい）。
スライド資料。
性感染症、エイズ予防に関する生徒配布用のわかりやすい資料（リーフレット）等。
最新情報や統計の資料が入った系統的な指導内容のパワーポイント。
生徒数が多いため、赤ちゃん人形抱っこ体験や、妊婦体験をする際の、数が多いと助かります。現在は、市学校保健会から貸し出して頂いていますが、もう少し必要と感じています。
性感染症に関する視聴覚教材。
思春期に向けたDVDなどの教材。
赤ちゃん人形（3キロくらい）のもの。
中学生向けに見せても良い授業向けの動画があると助かる。
パワーポイント等の指導資料。
多様な性についての資料。
特別支援学級の生徒を対象にした内容の教材。
性の多様性について（LGBTQ＋等）わかりやすい教材。

6 性に関する指導を行ううえでの課題

(1) 指導するうえで障害となっていること（複数回答） （生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計	
	n	43		23		24		90	
指導内容や方法に不安	(%)	27	(62.8)	12	(52.2)	13	(54.2)	52	(57.8)
教材・手引きが少ない	(%)	21	(48.8)	9	(39.1)	10	(41.7)	40	(44.4)
時間の確保が難しい	(%)	16	(37.2)	10	(43.5)	8	(33.3)	34	(37.8)
予算の確保が難しい	(%)	14	(32.6)	7	(30.4)	6	(25.0)	27	(30.0)
学校運営計画への位置づけがない	(%)	1	(2.3)	1	(4.3)	0	(0.0)	2	(2.2)
その他	(%)	1	(2.3)	2	(8.7)	1	(4.2)	4	(4.4)

(2) 指導するうえで障害となっていること （複数回答） （広域別）

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計	
	n	37		17		22		14		90	
指導内容や方法に不安	(%)	21	(56.8)	11	(64.7)	12	(54.5)	8	(57.1)	52	(57.8)
教材・手引きが少ない	(%)	14	(37.8)	9	(52.9)	9	(40.9)	8	(57.1)	40	(44.4)
時間の確保が難しい	(%)	11	(29.7)	8	(47.1)	11	(50.0)	4	(28.6)	34	(37.8)
予算の確保が難しい	(%)	13	(35.1)	2	(11.8)	7	(31.8)	5	(35.7)	27	(30.0)
学校運営計画への位置づけがない	(%)	1	(2.7)	1	(5.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(2.2)
その他	(%)	1	(2.7)	1	(5.9)	2	(9.1)	0	(0.0)	4	(4.4)

その他： 生徒の心身の発達と指導のタイミング
指導案を作成したり練ったりする時間が捻出しにくい
エイズ予防に関する生徒配布用のわかりやすい資料がない
心身の発達段階に応じる必要があるため

(3) 指導するうえで障害となっていることと特別活動等による指導の有無との関連

		特別活動等による指導				計		p値		オッズ比(95%CI)				効果量 (w)※3
		行った		行っていない										
	n	57		33		90		粗※1	調整後	粗※2		調整後		
指導内容や方法に不安	(%)	31	(54.4)	21	(63.6)	52	(57.8)	0.507						
教材・手引きが少ない	(%)	25	(43.9)	15	(45.5)	40	(44.4)	1.000						
時間の確保が難しい	(%)	16	(28.1)	18	(54.5)	34	(37.8)	0.023	0.015	0.33	(0.12-0.87)	0.32	(0.12-0.80)	0.78
予算の確保が難しい	(%)	18	(31.6)	9	(27.3)	27	(30.0)	0.812						
学校運営計画への位置づけがない	(%)	1	(1.8)	1	(3.0)	2	(2.2)	1.000						
その他	(%)	3	(5.3)	1	(3.0)	4	(4.4)	1.000						

※1：Fisher's exact test

※2：条件付き最尤推定量（conditional MLE）

※3：効果量の解釈;w=0.1～0.3:小さい,w=0.3～0.5:中くらい,w>0.5:大きい

(4) 指導するうえで障害となっていることと指導要領以外の指導の有無の関連

		指導要領以外の指導				計		p値※1
		行った		行っていない				
	n	35		54		89		
指導内容や方法に不安	(%)	19	(54.3)	32	(59.3)	51	(57.3)	0.667
教材・手引きが少ない	(%)	15	(42.9)	24	(44.4)	39	(43.8)	1.000
時間の確保が難しい	(%)	11	(31.4)	22	(40.7)	33	(37.1)	0.501
予算の確保が難しい	(%)	13	(37.1)	14	(25.9)	27	(30.3)	0.100
学校運営計画への位置づけがない	(%)	0	(0.0)	2	(3.7)	2	(2.2)	0.517
その他	(%)	2	(5.7)	1	(1.9)	3	(3.4)	0.559

※1：Fisher's exact test

(5) 指導で重点をおいていること（複数回答／生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計	
	n	46		25		26		97	
自他を尊重した行動	(%)	41	(89.1)	24	(96.0)	26	(100.0)	91	(93.8)
適切な行動選択	(%)	40	(87.0)	22	(88.0)	25	(96.2)	87	(89.7)
生命の尊重	(%)	40	(87.0)	18	(72.0)	19	(73.1)	77	(79.4)
発達の段階をふまえる	(%)	25	(54.3)	16	(64.0)	17	(65.4)	58	(59.8)
学校全体の共通理解を図る	(%)	11	(23.9)	8	(32.0)	9	(34.6)	28	(28.9)
保護者の理解を得る	(%)	9	(19.6)	5	(20.0)	9	(34.6)	23	(23.7)
その他	(%)	0	(0.0)	1	(4.0)	1	(3.8)	2	(2.1)

(6) 指導で重点をおいていること（複数回答／広域別）

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計	
	n	38		19		25		15		97	
自他を尊重した行動	(%)	35	(92.1)	18	(94.7)	24	(96.0)	14	(93.3)	91	(93.8)
適切な行動選択	(%)	34	(89.5)	18	(94.7)	21	(84.0)	14	(93.3)	87	(89.7)
生命の尊重	(%)	30	(78.9)	17	(89.5)	18	(72.0)	12	(80.0)	77	(79.4)
発達の段階をふまえる	(%)	20	(52.6)	15	(78.9)	15	(60.0)	8	(53.3)	58	(59.8)
学校全体の共通理解を図る	(%)	14	(36.8)	4	(21.1)	7	(28.0)	3	(20.0)	28	(28.9)
保護者の理解を得る	(%)	11	(28.9)	5	(26.3)	5	(20.0)	2	(13.3)	23	(23.7)
その他	(%)	2	(5.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(2.1)

その他：　生徒のニーズ
　　　　　どの学年でも性の多様性についての理解を得ること

(7) 指導で重点をおいていることと特別活動等による指導の有無との関連

		特別活動等による指導				計		p値		オッズ比(95%CI)				効果量
		行った		行っていない										(w)※3
	n	62		35		97		粗※1	調整後	粗※2		調整後		
自他を尊重した行動	(%)	61	(98.4)	30	(85.7)	91	(93.8)	0.022	0.061	9.92	(1.05-487)	8.38	(0.91-77.6)	0.99
適切な行動選択	(%)	56	(90.3)	31	(88.6)	87	(89.7)	1.000						
生命の尊重	(%)	48	(77.4)	29	(82.9)	77	(79.4)	0.608						
発達の段階をふまえる	(%)	37	(59.7)	21	(60.0)	58	(59.8)	1.000						
学校全体の共通理解を図る	(%)	17	(27.4)	11	(31.4)	28	(28.9)	0.816						
保護者の理解を得る	(%)	13	(21.0)	10	(28.6)	23	(23.7)	0.459						
その他	(%)	0	(0.0)	2	(5.7)	2	(2.1)	0.534						

※1：Fisher's exact test

※2：条件付き最尤推定量（conditional MLE）

※3：効果量の解釈;w=0.1～0.3:小さい,w=0.3～0.5:中くらい,w>0.5:大きい

(8) 指導で重点をおいていることと指導要領以外の指導の有無との関連

		指導要領以外の指導				計		p値		オッズ比(95%CI)				効果量※3
		行った		行っていない										
	n	40		56		96		粗※1	調整後	粗※2		調整後		(w)
自他を尊重した行動	(%)	39	(97.5)	51	(91.1)	90	(93.8)	0.396						
適切な行動選択	(%)	39	(97.5)	47	(83.9)	86	(89.6)	0.042	0.058	7.35	(0.95-335)	7.83	(0.93-66.2)	0.91
生命の尊重	(%)	35	(87.5)	42	(75.0)	77	(80.2)	0.194						
発達の段階をふまえる	(%)	25	(62.5)	32	(57.1)	57	(59.4)	0.676						
学校全体の共通理解を図る	(%)	11	(27.5)	17	(30.4)	28	(29.2)	0.823						
保護者の理解を得る	(%)	9	(22.5)	14	(25.0)	23	(24.0)	0.813						
その他	(%)	2	(5.0)	0	(0.0)	2	(2.1)	0.171						

※1：Fisher's exact test

※2：条件付き最尤推定量（conditional MLE）

※3：効果量の解釈;w=0.1～0.3:小さい,w=0.3～0.5:中くらい,w>0.5:大きい

(9) 生徒をとりまく新たな課題（複数回答／生徒数規模別）

		小規模校		中規模校		大規模校		計	
	n	46		25		26		97	
SNS等ネットトラブル	(%)	43	(93.5)	20	(80.0)	24	(92.3)	87	(89.7)
性に関する誤った知識	(%)	29	(63.0)	19	(76.0)	18	(69.2)	66	(68.0)
性に関する知識不足	(%)	28	(60.9)	15	(60.0)	14	(53.8)	57	(58.8)
デートDV	(%)	20	(43.5)	13	(52.0)	12	(46.2)	45	(46.4)
性被害・加害	(%)	9	(19.6)	9	(36.0)	11	(42.3)	29	(29.9)
性の多様性	(%)	11	(23.9)	6	(24.0)	9	(34.6)	26	(26.8)
その他	(%)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)

(10) 生徒をとりまく新たな課題（複数回答／広域別）

		盛岡広域		県南広域		沿岸広域		県北広域		計	
	n	38		19		25		15		97	
SNS等ネットトラブル	(%)	33	(86.8)	18	(94.7)	23	(92.0)	13	(86.7)	87	(89.7)
性に関する誤った知識	(%)	26	(68.4)	13	(68.4)	20	(80.0)	7	(46.7)	66	(68.0)
性に関する知識不足	(%)	21	(55.3)	12	(63.2)	13	(52.0)	11	(73.3)	57	(58.8)
デートDV	(%)	15	(39.5)	10	(52.6)	13	(52.0)	7	(46.7)	45	(46.4)
性被害・加害	(%)	11	(28.9)	7	(36.8)	8	(32.0)	3	(20.0)	29	(29.9)
性の多様性	(%)	8	(21.1)	5	(26.3)	8	(32.0)	5	(33.3)	26	(26.8)
その他	(%)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)

(11) 生徒をとりまく新たな課題と特別活動等による指導の有無との関連

		特別活動等による指導				計		p値		オッズ比(95%CI)				効果量 (w)※3
		行った		行っていない										
	n	62		35		97		粗※1	調整後	粗※2		調整後		
SNS等ネットトラブル	(%)	56	(90.3)	31	(88.6)	87	(89.7)	1.000						
性に関する誤った知識	(%)	45	(72.6)	21	(60.0)	66	(68.0)	0.258						
性に関する知識不足	(%)	37	(59.7)	20	(57.1)	57	(58.8)	0.833						
デートDV	(%)	29	(46.8)	16	(45.7)	45	(46.4)	1.000						
性被害・加害	(%)	23	(37.1)	6	(17.1)	29	(29.9)	0.063	0.171	2.82	(0.95-9.58)	2.11	(0.73-6.13)	0.79
性の多様性	(%)	19	(30.6)	7	(20.0)	26	(26.8)	0.341						
その他	(%)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	-						

※1：Fisher's exact test

※2：条件付き最尤推定量（conditional MLE）

※3：効果量の解釈;w=0.1～0.3:小さい,w=0.3～0.5:中くらい,w>0.5:大きい

(12) 生徒をとりまく新たな課題と指導要領以外の指導の有無との関連

		指導要領以外の指導				計		p値		オッズ比(95%CI)				効果量 (w)※3
		行った		行っていない										
	n	40		56		96		粗※1	調整後	粗※2		調整後		
SNS等ネットトラブル	(%)	38	(95.0)	48	(85.7)	86	(89.6)	0.186						
性に関する誤った知識	(%)	30	(75.0)	35	(62.5)	65	(67.7)	0.269						
性に関する知識不足	(%)	25	(62.5)	31	(55.4)	56	(58.3)	0.533						
デートDV	(%)	18	(45.0)	26	(46.4)	44	(45.8)	1.000						
性被害・加害	(%)	18	(45.0)	10	(17.9)	28	(29.2)	0.006	0.014	3.71	(1.36-10.6)	3.26	(1.27-8.42)	0.81
性の多様性	(%)	11	(27.5)	14	(25.0)	25	(26.0)	0.817						
その他	(%)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	-						

※1：Fisher's exact test

※2：条件付き最尤推定量（conditional MLE）

※3：効果量の解釈;w=0.1～0.3:小さい,w=0.3～0.5:中くらい,w>0.5:大きい

７　性に関する指導についての自由意見

自由意見
今後指導に関する研修を行いながら、指導の充実に努めていきたい。
学級指導で性指導を計画する場合の（指導計画・指導案）指導書がほしい。中学生の性指導について指導計画を立案した際には東山書房の書籍を利用した。今はその書籍も絶版となっている。性に関し生徒が正しい知識を身に着けているかどうか、どのような考えを持っているのかなど実態がつかめていないのが現状。
コロナ対策として集団への指導が困難となり、未実施となってしまいました。時代や価値観の変容にあわせて指導内容も変えていかなければならないと感じます。
性被害、性暴力について教えるときに学習指導要領に示されていない性行為について取り扱わずに指導するのは難しいと感じる。生徒達が正しい知識がないために傷ついたり困ることがないようにしたい。
問４の設問にあった内容について、指導者側から積極的に触れないまでも、性に関する指導の中では、生徒の方から性交・避妊・人工妊娠中絶が積極的にでてきます。それを無視しての指導はできないのが現状です。それに対応できる指導力・伝え方ができるよう研鑽を積んでいかなければならないと思います。
本校で性に関する指導を実施する際に大切にしていることは、生徒や教員のニーズ(実態)に即した内容を選定することと、それをどのように伝えるかという授業の進め方やスライドの検討を、講師と入念に打ち合わせて授業を作るということです。講師の講話と学年の教員総動員したグループワーク(100分)を行なっています。外部講師を招致する予算(2万円)の確保が課題です。現在は学年集金という生徒集金で賄っていますが、予算化されると毎年安定して実施することができると思います。
令和3年度はコロナウイルス対策として、外部講師の方による指導がキャンセルになりました。令和4年度は外部講師の方から指導していただいており、今後も続けてお願いする予定です。
思春期外来が、地域によって偏りがないように充実させてほしい。
子どもたちはネット社会で情報はたくさん持っている。その中で何をどこまで学校で指導していくか難しい。学校では本当にやることが多く、性に関する指導に特化して行うには限界がある。人間尊重、男女平等は社会科では公民的分野で必ず扱う。学習指導要領に示されている内容にプラスして外部講師の講義をやることにより、性について真剣に考えることができているように感じる（保健体育）。 性トラブル（SNS等）が増えているように感じるので、身近なことから行動できるように生徒の実態にあった指導をしていきたいと思う。
性の”せい”か生の”せい”か範囲があいまいで答えにくかった。
性の多様性やデートDVなど社会状況を背景とした問題も多くなったきました。県内の状況や様子などを共有する機会があれば嬉しく思います。
講師の先生と実施計画を立てる上で、LGBTQの生徒や家族環境にも気を使い検討します。実施後の生徒の感想を読むと疑問だったことが減ったという感想も多いことから、正しい知識の理解や自分と向き合う機会になっていると感じます。本校は、外部講師を入れていますが、もう少し時間を増やし指導したいと考えています。
スマートフォンなどから様々な情報を得る機会が増えている。生徒の知識には差があり、保健の授業以外のところでどこまで触れるべきか難しいところもあるが、正しい知識を持つことで自分や周りの人を守ることにもつながることから、きちんと性交まで触れ、合わせて様々なリスク等も教える必要があると思われる。そのためには、家庭の協力を得ながら学ぶ機会を設定することが、必要不可欠であると考える。
正しい知識や望まない妊娠をさせないための指導資料。
教職員のジェンダーや性のとらえ方、考え方について底上げしていく必要があると思います。校内研修の中に取り入れたり、初任者研修、〇年目研修などの時に必修にして研修してほしい。また、管理職研修でも必修にしてもらえれば、教職員の意識が高まり、教科の中で、また生徒指導の中で関連することがらだけでなく、生徒への言葉がけなども変わってくるのではないかと思う。 外部講師を呼んでの一時間の指導を性教育とするのではなく、日常的に生徒を取り巻く環境としての性教育に目を向けていきたいと思っています。本校では4年度に図書館で「私の生と性」という企画展を開きました。生徒が楽しく正しい知識を得られるような本を図書館にとりそろえました。こういう取り組みをこれからも続けていきたいと思っています。

自由意見
令和3年度の実績について、現在残っている職員が少なすぎるため十分に回答できませんでした。自治体で継続している地域の事業に毎年来てくださっている外部講師と看護師・保健師3者でも講話がとてもよく、自治体の予算で行ってくれていて助かっている。今は予算化されているのでいいが、もしも予算化がなくなったら全くできなくなってしまうのかと危惧してしまう。
時数の確保が難しく、教科外指導の時間がなかなかとれません。また、教科ごと指導要領に即した形で指導を行っていますが、学校として性の指導計画も立てられていないのが現状です。
自治体の学校保健会の事業の一つとして「思春期保健教室」を位置づけており、コロナ禍で講師の方々にはお忙しかったと思いますが、対面形式やリモート形式で毎年全学年に講演を実施することができ、生徒を無事に卒業させることができております。県医師会の皆様にもご協力感謝申し上げます。
ゆくゆくは、文科省の学習指導要領に位置付け、時間確保出来ると良いと考えます。性交を扱わずに‥の指導には限界があると感じています。
１年生の段階では、二次性徴についてと命の大切さについて学習させたい。さらに、3年生の段階では男女交際に関わっての知識と行動を身に着けさせるために、外部より講師を招きたい。また、出来るだけ生徒の年齢に近い看護学生によるピア学習の形式などをさせたい。
学校生活では、各教科の中でも、日常生活の中でも性の多様性や異性との関わり、心身の成長、自他を大切にする生き方など触れる場面はたくさんあり、その都度指導を必要とすることが出てくる。しかし学校行事関連での活動もあり、授業として取り上げる時間は限られてくる。外部講師をお呼びしての講演会も開催はしているが、日常の指導場面で指導するための重要なポイントが、項目毎に分類された分かりやすい指導資料や、体育科の授業で使用出来る動画やスライド等の副教材があれば活用したい。
２０代の若い世代の中で問題視されていることとして、性感染症、望まない妊娠、性暴力被害、などがあげられると思います。しかし、指導要領に性交渉や、避妊法などの記載がないことで触れることがありません。子どもたちがそれらの情報に触れるためには、自主的にインターネットを介して知るか、各家庭で親と話をするほかありません。ぜひ、指導要領の中に性交渉や、避妊法、人工妊娠中絶に関わる知識、などを記載することを検討していただきたいです。

性に関する指導の実施状況に関する調査

注1　本調査は、各中学校で令和３年度に実施した「性に関する指導」について、お答えください。
注2　本調査の回答は、以下の3種類の方法から、ひとつ選んで回答してください。
①URLに示したグーグルフォームにアクセスし、回答をフォームに入力・登録する。
https://forms.gle/zFnKGjhRQxk8FoT4A
②本調査票に回答を入力し、読み取りパスワードを設定したのち、以下のメールアドレスあてにエクセルファイルを添付したメールを送付する。
③本調査票に回答を手書きしたものをPDF化し、読み取りパスワードを設定したのち、以下のメールアドレスあてにPDFファイルを添付したメールを送付する。
satoutakashi@iwate-shisyunki.jp
注3　本調査への協力につきましては任意であり，回答しにくいところは回答しなくてもかまいません。また，参加の拒否や中止された場合でも、何の不利益、影響も被らないことを保障

このアンケートで扱う「性に関する指導」とは、以下のことがらに関する指導のことを言います。
・人間尊重、男女平等等　・生命尊重　・性の問題に対する適切な意思決定や行動選択
・心身の成長　・異性との関わり　・自他を大切にする生き方

1　学校の属性等

1-1　学校名

1-2　生徒数　　名

1-3　アンケート回答者の職種（回答した方の職種すべてについて選択してください。）

□ 校　長　□ 副 校 長　□ 養護教諭　□ 教務主任　□ 保健主事
□ 教　員　□ そ の 他

2　教科学習で行った性に関する指導の実施状況

2-1　教科学習で行った性に関する授業を扱った授業時間数をお書きください。

保健体育科	1年生		時間
	2年生		時間
	3年生		時間
家庭科	1年生		時間
	2年生		時間
	3年生		時間
理科	1年生		時間
	2年生		時間
	3年生		時間
道徳科	1年生		時間
	2年生		時間
	3年生		時間
社会科	1年生		時間
	2年生		時間
	3年生		時間

2-2　教科間の連携（例：保健体育と道徳など）を行いましたか。

□ 行った　→　行った事例を下欄にお書きください。

□ 行っていない　→　設問3へ

3　特別活動・総合的な学習で行った性に関する指導の実施状況

3-1　特別活動・総合的な学習で性に関する指導を行いましたか

☐ 行った　→　学年ごとに行った内容を下欄にお書きください。

☐ 行っていない　→　設問4へ

1年生

形　態

☐ 外部講師による指導　☐ 学校教職員による指導

☐ 外部講師と学校教職員が一緒に行う指導

☐ その他

講師等（職種）

☐ 産婦人科医　☐ 医師（産婦人科以外）　☐ 助産師

☐ 保健師　☐ 看護師　☐ 大学教員

☐ その他

内容
（テーマなど）

時間数　時間

2年生

形　態

☐ 外部講師による講演　☐ 学校教職員による指導

☐ 外部講師と学校教職員が一緒に行う指導

☐ その他

講師等（職種）

☐ 産婦人科医　☐ 医師（産婦人科以外）　☐ 助産師

☐ 保健師　☐ 看護師　☐ 大学教員

☐ その他

内容
（テーマなど）

時間数　時間

3年生

形　態

☐ 外部講師による講演　☐ 学校教職員による指導

☐ 外部講師と学校教職員が一緒に行う指導

☐ その他

講師等（職種）

☐ 産婦人科医　☐ 医師（産婦人科以外）　☐ 助産師

☐ 保健師　☐ 看護師　☐ 大学教員

☐ その他

内容
（テーマなど）

時間数　時間

4　性交、避妊法や人工妊娠中絶など、学習指導要領に示されていない内容について

4-1 性交、避妊法や人工妊娠中絶など、学習指導要領に示されていない内容について指導していますか

□ 指導している　→　設問4-2へ

□ 指導していない　→　設問5へ

4-2 どのような内容を指導していますか。（複数回答）

□ 性交　□ 避妊法　□ 人工妊娠中絶　□ 望まない妊娠

□ その他

4-3 どのような位置づけで指導していますか。（複数回答）

□ 教科学習　□ 特別活動　□ 総合的な学習の時間

□ その他

4-4 授業で指導している理由をお書きください。（自由記載）

5　教材について

5-1 性に関する指導で、使用している教材がありますか。

□ ある　→　どのような教材か、以下の選択肢からお選びください。（複数回答）

□ ない　→　設問5-3へ

□ 独自に作成した資料やスライド

□ 他から入手した資料やスライド

□ その他

5-2 使用している教材の内容をお書きください。

5-3 こんな教材がほしいと思うものがありましたらお書きください（自由記載）

6　性に関する指導を行ううえでの課題

6-1　性に関する指導を行ううえで、障害となっていること（複数回答）

☐ 指導内容や方法に不安がある
☐ 適当な教材・資料や手引きがない
☐ 性に関する指導の時間を確保が難しい
☐ 外部講師を承知する予算確保が難しい
☐ 指導計画が学校運営計画に位置づけられていない
☐ その他

6-2　性に関する指導で重点をおいていること（複数回答）

☐ 適切な行動選択ができること
☐ 自他を尊重した行動をとれること
☐ 生命の尊重
☐ 学校全体の共通理解を図ること
☐ 保護者の理解を得ること
☐ 発達の段階をふまえること
☐ その他

6-3　生徒達をとりまく新たな課題（複数回答）

☐ SNS等ネットに関するトラブル
☐ 性に関する誤った知識
☐ 性の多様性
☐ 性に関する知識不足
☐ デートDV
☐ 性被害・加害
☐ その他

7　性に関する指導に関して、ご意見等ありましたらご自由にお書きください。

問い合わせ先
岩手県医師会思春期保健対策委員会
「性に関する指導の実施状況に関する調査」ワーキンググループ 佐藤
satoutakashi@iwate-shisyunki.jp

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

【ワーキンググループメンバー】

氏　名	所　属	備　考
佐藤　卓	岩手県男女共同参画センター	いわて思春期研究会
大久保　牧子	岩手県立大学看護学部	いわて思春期研究会
金谷　掌子	岩手県立大学看護学部	
谷地　和加子	岩手県立大学看護学部	
山内　侑里	岩手県立大学看護学部	
佐々木　亮平	岩手医科大学教養教育センター	いわて思春期研究会
山田　真帆	岩手県立大学　7Life	いわて思春期研究会
熊谷　郁子	盛岡市立飯岡中学校	養護教諭
中野　奈穂美	盛岡市立下小路中学校	保健体育教諭

岩手県の中学校における性に関する指導の実施状況に関する調査

令和 5 年 11 月 15 日　発行

岩手県医師会思春期保健対策委員会

○岩手県医師会思春期保健対策委員会
○いわて思春期研究会 Email:satoutakashi.baozi@gmail.com